

## 第3章 実証の結果

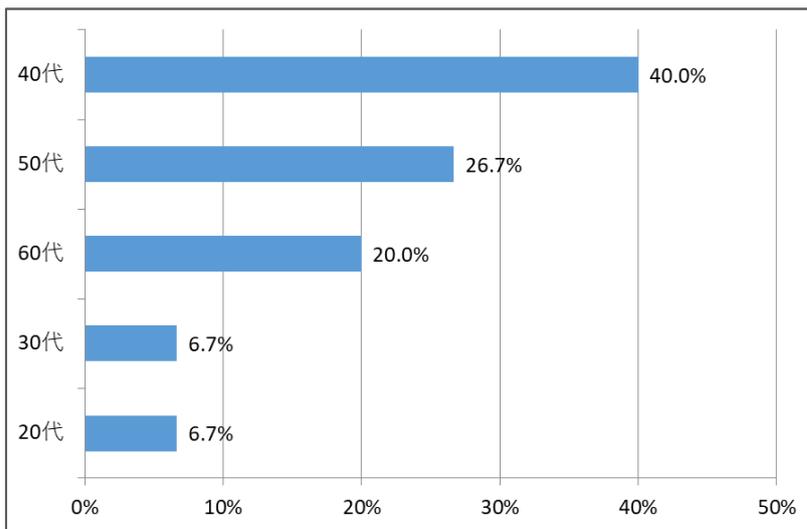
第2章において仮説をたて、検証を実施した内容について説明した。第3章では、実証の結果を述べる。

### 3.1 学習者における実証

「生涯学習プラットフォーム(仮称)」を活用して学習し、学習後は学習者間でネットワークをとり、また学んだことを活かして地域活動に参画する学習者を想定し、アンケート調査を行った。

アンケート調査の対象は、教育支援人材認証協会の「こどもパートナー」「こどもサポーター」「こども支援士」等の認証を受けた、またはこれから認証を受けようと考えている方15名、全員女性である。

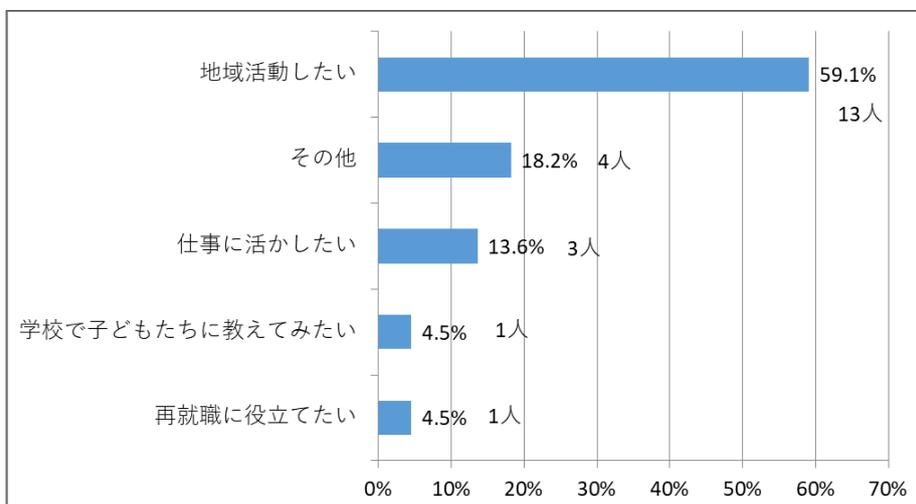
年代別に見ると、40代が6名、50代が4名、60代が3名、30代が1名、20代が1名である。



学習者の年代

### 3.1.1 集計結果

#### Q1 どういう活動に認証を活かしたいと思っていますか？



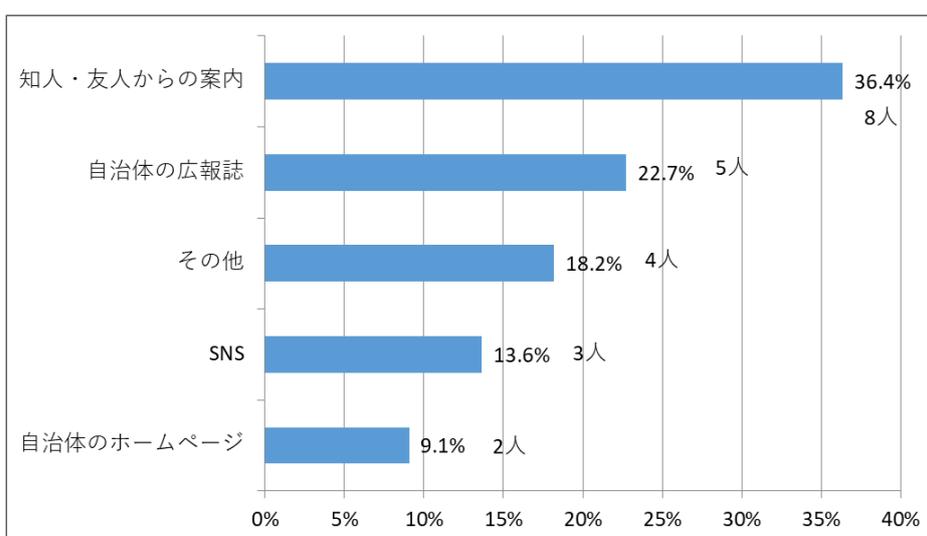
(具体的にどのように認証を活かしたいか。)

- ・ 学校支援コーディネーター、PTA 活動での支援のありかたや動向を知ったうえで地域の特色を活かしたい。地域親の会での情報交換のためにリソースが欲しい。福祉、障害者支援をとおして人権活動を広げたい(40代)。
- ・ 放課後の子どもたちの支援、授業内の学習支援、保護者のフォロー、また仕事にも活かしたい(40代)。
- ・ 市民向け講座・勉強会・子どもたち・学生の生きていく力を育む事業における研修での活用(40代)。
- ・ ママたちとかかわる仕事をしているので、ママたちに学んだ事を伝えたり活動にかしたいです(40代)。
- ・ 内容によって、仕事にも、ボランティアにも活かさせたらと思います(50代)。
- ・ 認証は大学で学べるという事が魅力で、応募しました。いまは子育て中なので難しいですが(40代)。
- ・ 子どもが手を離れたら、前職の(学校・教室講師等)に再就職したい(40代)。
- ・ こども食堂等のお手伝いをしたい(40代)。
- ・ 「認証を活かす」と言うことではなく、子どもたちに工作指導や遊び学習の手伝いなどをするためには、子どもとのかかわり方を学ぶ必要があるだろうと考えて講座を受講し、受講中に「認証」があるということを知りました。勉強したことの証として「認証」を取得したのであります(60代)。(「その他」と回答)
- ・ 今まで活動をしてきた認証をもっているかどうか聞かれたことがない(60代)。(「その他」と回答)
- ・ 地域の子育てサポートをしていることから、未就学児とのその親との接点はあるが、就学時の子どもたちと接する機会がない。川崎市でもここ最近、寺子屋やこども食

堂などがスタートしたが、そうした活動に参加できるといいと思う(60代)。

- ・ 営利目的ではなく、純粹に子どものニーズに応える活動に活かす(30代)。
- ・ 体験的な授業や部活動に親や地域が入ってほしい(50代)。
- ・ 市民向け講座・勉強会の開催
- ・ 子どもたち・学生の生きていく力を育む事業における研修での活用
- ・ 日常の生活に活かしていきたい。子どもとの関わりは日常生活の上でたくさんあるので(50代)。(「その他」と回答)
- ・ 地域で子ども教室など行っているので安心してもらうために(40代)。
- ・ お役に立てるなら、自分に出来ること、何でも活かしたいです。子どもたちには、むしろ教えるよりも、教えて欲しいです。その世代にしか分からないことがある気がします。トレードの如く老若男女、教えあい、高めあっていけたら、それぞれがプラスに生き、社会もより円滑になりそうで私自身、活かし、活かされたいと思っています(20代)。(「その他」と回答)

## Q2 認証を活かすためにどのようなところから情報を得ていますか？

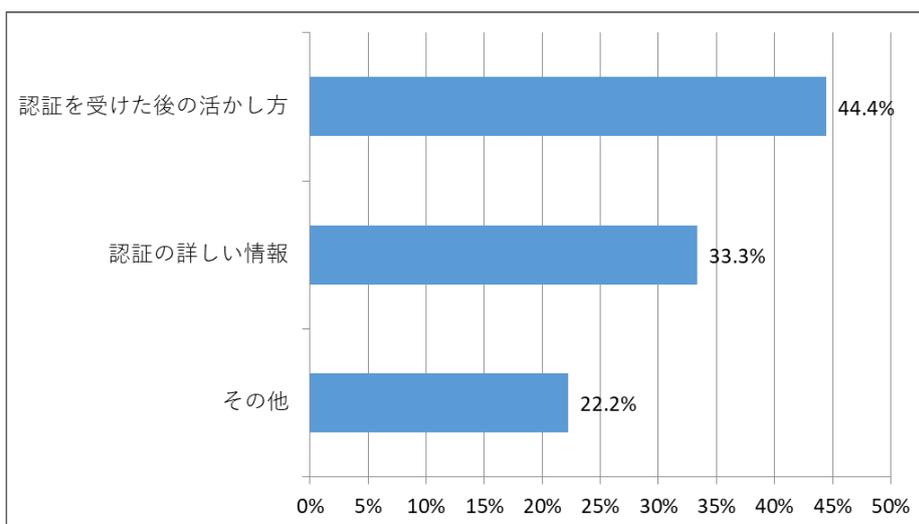


(具体的にどこから情報を得ているか。)

- ・ 支援仲間からのリアルタイム情報
- ・ 講師仲間からの案内
- ・ 知人・友人からのメール
- ・ 市や都の広報誌、市報
- ・ 認証協会からのメルマガ
- ・ キャリア教育をされている団体などから
- ・ Facebook
- ・ 自治体のホームページ
- ・ インターネットの情報

- ・ 既存の子ども関連の事業や組織へのフォローとして入る。地域のネットワークへ出かける。
- ・ 回覧板(小中、学校だよりなど)
- ・ 子どもからの実際の会話の中から情報を得る。
- ・ 前職の関係以外情報がなく、このシステムは魅力的と思いました。

### Q3 認証を受ける前、その認証についてどのような情報を知りたいと思っていましたか？

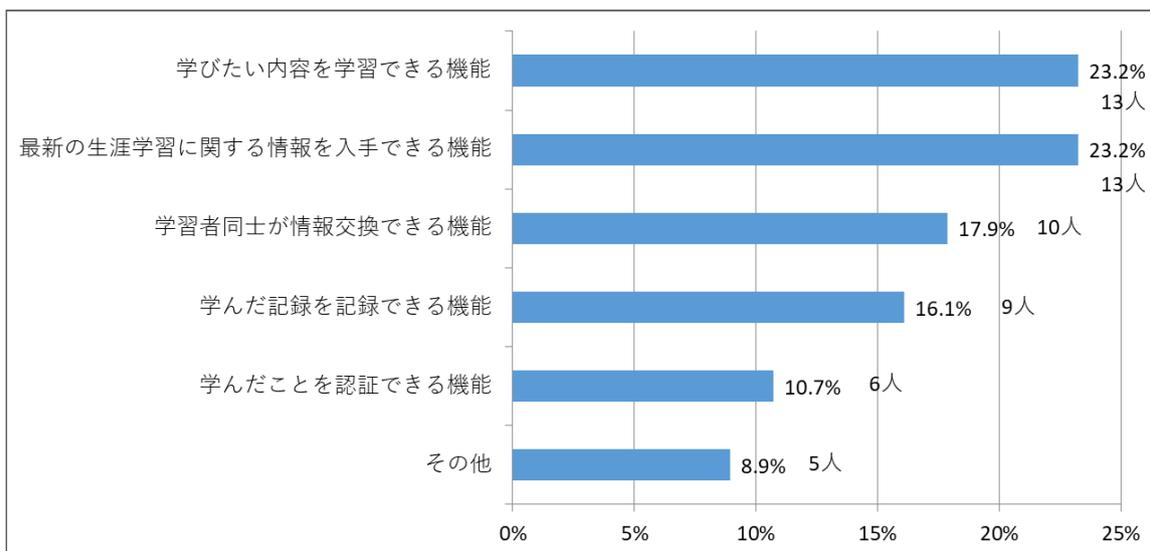


(具体的にどのような情報を知りたいか。)

- ・ 市町村教育委員会と連携し、そういうシステムが確立するといい。
- ・ 認証＝資格と考え、近隣の市にあるような「ファミリーサポート」のように資格を取ったらお子さんを預かたりできるような仕事に直結するものなのかと勝手に勘違いしたところもある。
- ・ 学んだ事をどのように生かしていけるか。
- ・ どのような認証講座が設けられているのか。また認証を受けられた方がその認証をどのような形で活かしていられるのか、認証後のスキルアップの機会をどのように得られているのか。認証をだされている協会に困ったときのフォローアップはどのように受けているか、など色々知りたかったです。
- ・ 認証目的ではなく、知識がほしかったので講義を受けたかった。
- ・ 同じ立場の人とつながりたかった。
- ・ 地域への活かし方、認証が必要な活動場所が知りたかった。
- ・ 認証を受けた後にどういうことができるのか、認証をどうやって活かしていけばいいのか、講座の中ではっきりと示されなかったように記憶しています。実際、認証を受ける前と後で、活動が広がったりすることはあまりありませんでした。活かし方も、学芸大付近の方はいろいろあるのかも知れませんが、地域が違くと、自主的に探

さないと見つからなく、なおかつ認証の知名度の問題もあって、なかなか活かせない現状です。

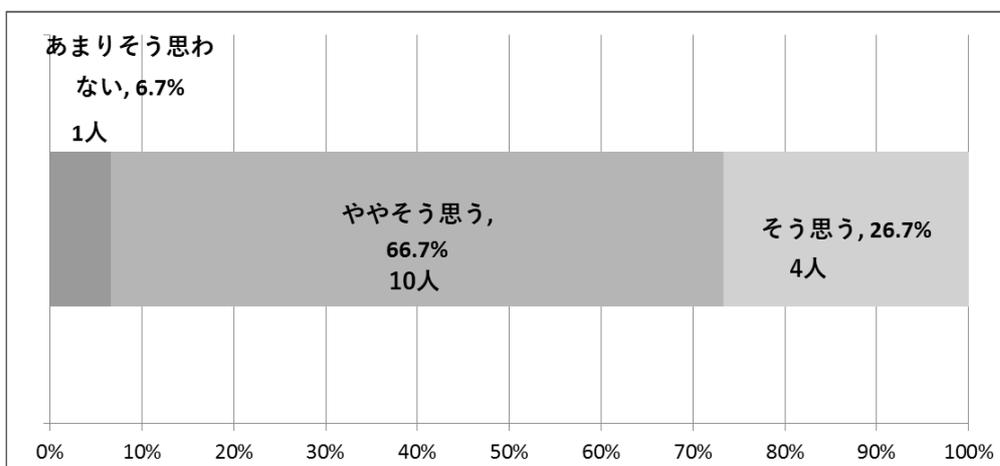
#### Q4 生涯学習プラットフォームには、どのような情報や機能が必須で掲載されていてほしいですか。



(具体的にどのような情報や機能が掲載されたいか。)

- ・ インターネットサイトに知りたい情報がまとまっているのは有難いことです。
- ・ インターネット以外の受講機会の紹介、職業にしたい人向けには、求人情報等
- ・ 自身の興味がある分野(登録段階で選択)についての勉強会や講習会の開催情報を入手できる。
- ・ 別のネット講座をしていますが、購入して学んだ講座を再度見られたり、講座記録の欄があると、探しやすく便利だと思いました。
- ・ トータルなサイトがあり、なおかつ交流の場としても活用できると、とても役立つと思います。
- ・ 学べる、または活動のエリア、個人個人のネットワーク
- ・ 学んだことが活かせる求人のような情報機能。
- ・ なかなか講座を受講しに出向くことができないので、ネット上で学べるのは助かる。
- ・ どの講座を学んだかを記録できると同じ講座を重複して受けることがないため。また、自分の知識の記録になり便利。
- ・ 常に最新情報が新しくなっていく中、このサイトを覗けば興味のある生涯学習にヒットできる可能性があると思うと利用価値が出る。
- ・ 自分がまだ学んでいない講座が何なのかわかりやすく、次につながる学びが楽しみです。
- ・ インターネット以外の受講機会の紹介。職業にしたい人向けには、求人情報等。
- ・ 最近の子どもの状況(子どもを取り巻く変化は急激に変化している)。

## Q5 仮のインターネットサイトで活動を探しやすいと思いますか。



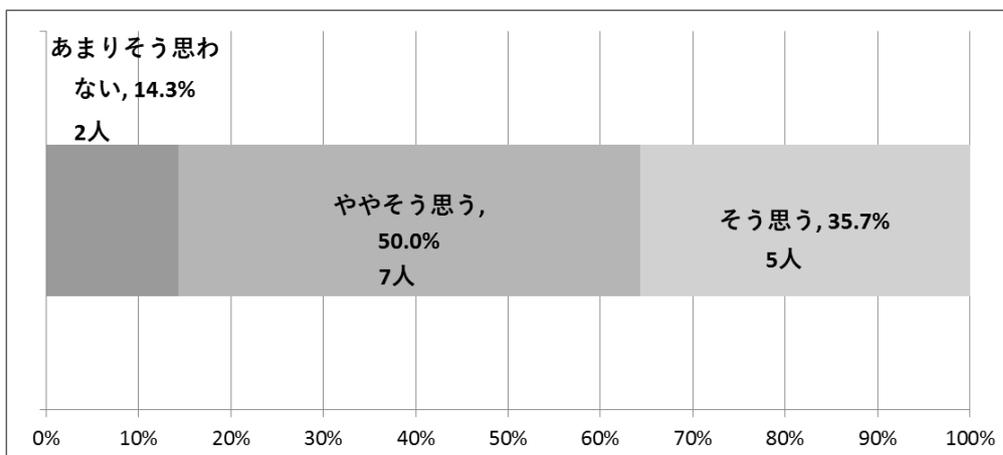
### ●（「そう思う」「ややそう思う」理由）

- ・ 視覚的に分かりやすい。
- ・ 活動中、募集中、受付終了など色分けしてありわかりやすい。
- ・ 初めの画面で自分に合った様々な活動が簡潔に紹介されているため。
- ・ キーワードや活動で知りたい情報や活動場所が分かる。
- ・ レイアウトが見やすいと思いました。
- ・ 解りやすい分類に区切られていて、自分が見たい内容のコンテンツに簡単に入れそう。
- ・ 自分のスキルと空き時間に照らし合わせてやりたいことを選べそうな雰囲気がある。
- ・ 「仮のインターネットサイト」の様な形態で表記されるのであれば、自分のやりたい、または知りたい、学習したいというタイトルをクリックすれば知ることが出来るというのであればよいと思う。
- ・ 活動期間や掲載期間にもよると思うのですが、新鮮で伝える情報がまとまっていることは良いと思います。自分の居る位置から勝手にGPS等で探されるのはちょっと遠慮したいです。可能性は広く！

### ●（「あまりそう思わない」理由）

- ・ 縦に一覧表の方が気が分散しないのではないだろうか。

## Q6 仮のインターネットサイトで学習コンテンツを選びやすいと思いますか。



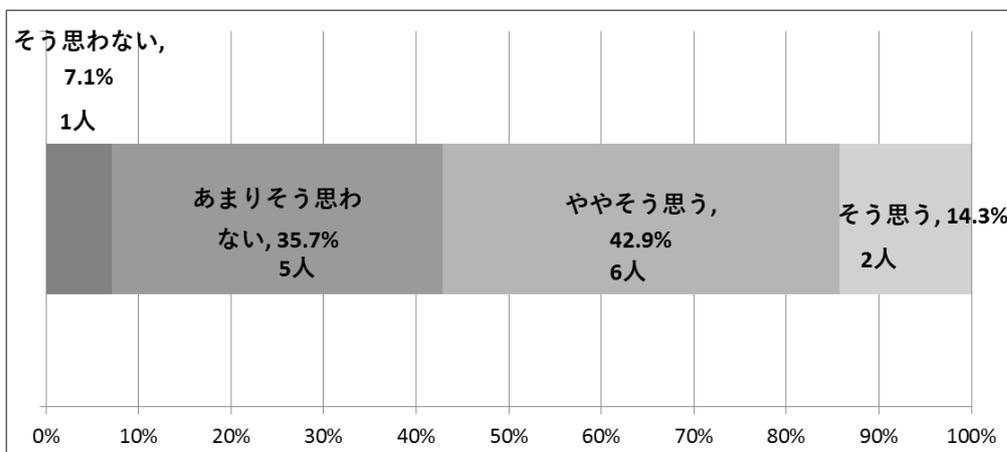
### ●（「そう思う」「ややそう思う」理由）

- ・ 実際の講座に参加するには、都合が合わないことが多く、このようなサイトがあれば、いつでもどこでも学べることはうれしい。
- ・ 受付終了も記載されていることで、次回同じような講座があった場合に参加したいと思えます。
- ・ 初めの画面で自分に合った様々な学習コンテンツが簡潔に紹介されているため。
- ・ 新しい検索内容であって面白い。他業種のつながりも持てそうである。
- ・ まとまっていて、動画も見やすかったです。
- ・ 色分けされている部分が見やすく、選ぶ際に役立ちそう。
- ・ 内容や時間、日にちなどが見やすい配置になっている。
- ・ 視覚的にわかりやすいから。
- ・ 当たり前ですが、情報は分散されていて、そこに辿り着くまでが大変です。しかし、専門に学習コンテンツでまとまっていると、選びやすいと思うのです。気持ちからすぐ行動へ出来れば有り難いです。

### ●（「あまりそう思わない」理由）

- ・ 選択項目・情報が多すぎる印象を受けるので、短時間の閲覧には向かない。
- ・ 縦横あるので頭の中でまとめづらい。

## Q7 仮のインターネットサイトでコミュニティに参加しやすいと思いますか。



### ●（「そう思う」「ややそう思う」理由）

- ・ 初めの画面で様々なコミュニティが簡潔に紹介されているため気になるコミュニティを探しやすくなるが、コミュニティの参加メンバー層などが見えにくく、参加に多少抵抗感があるため。
- ・ コミュニティを勧められるより、自身で興味のある分野を選択できる方がいいと思います。
- ・ コミュニティも申し込みがありわかりやすい。
- ・ 過不足なく見やすいです。
- ・ パッと見た感じは参加しやすそうだと思う。ただ、ネット上のコミュニティ参加に少し躊躇する部分があるので、はじめの一步が出にくいと思う。これはサイトの問題ではなく、自分の意識の問題かもしれない。

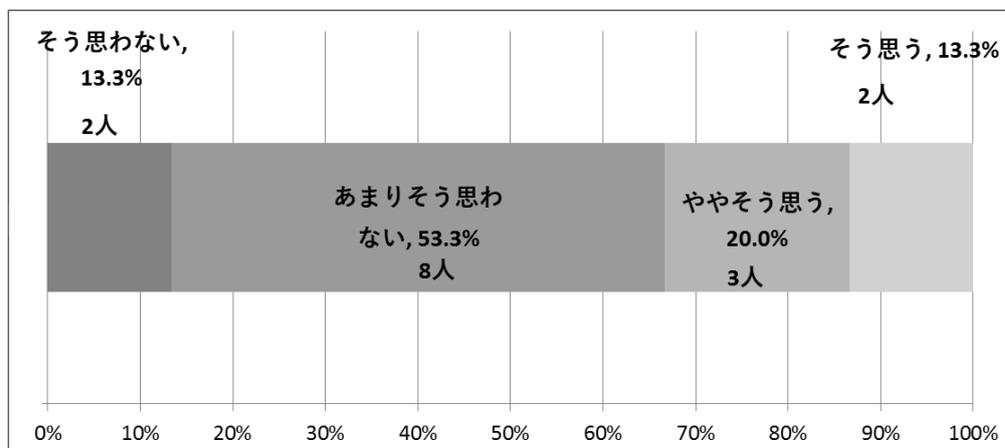
### ●（「そう思わない」「あまりそう思わない」理由）

- ・ どのような人が登録してくるのか、その危機感はある。顔が見えるようで見えない。
- ・ 私は器用ではないので、上手にコミュニティを利用する自信がありません。それよりも、認証は資格のようなものだと思うので、自分自身のスキルや知識を増やし、上げていきたいです。
- ・ 自身があまり SNS のコミュニティサイトに参加することが好きではない。
- ・ 見つけれなかった。

### （無回答）

- ・ よく分からない…受講者同士又は受講中の人同士、等々で交流する機会を設けるということですか。

## Q8 仮のインターネットサイトで他の参加者と交流してみたいと思いますか。



### ●（「そう思う」「ややそう思う」理由）

- ・ 交流はつながりを構築することとなり必要だと思うが、サイトにある「この人と話してみるといいかもしれません」はちょっと押し付けられている感じを受けます。
- ・ ネットでの炎上などもよく聞きますので、顔の見えない人たちと交流をもつことはやや不安なので「ややそう思う」としました。
- ・ 登録者の情報が確かであれば、交流したい。見栄や偽りの情報が載っていなければ、関係機関や個人とすぐにでも交流はしたい。
- ・ 信用できるサイトであると判断できれば参加する可能性はある。

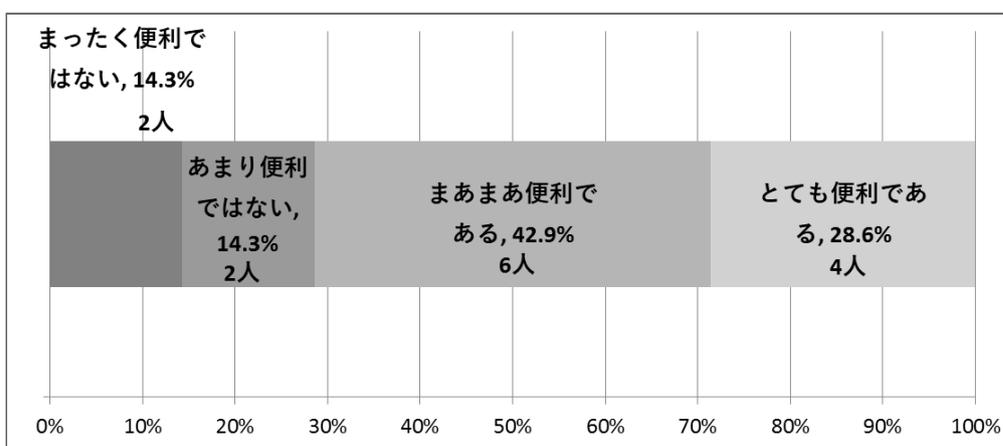
### ●（「そう思わない」「あまりそう思わない」理由）

- ・ 他の参加者を見つけやすい状況ではあるが、ネット上のみの知り合いと交流することに多少の抵抗感があるため。
- ・ 連絡を取ってみたい人と連絡を取れるのはよいと思いますが、あしあとに「〇〇さんがプロフィールをみました」と名前やニックネームが出るのは気持ちの良いものではないので、あしあとを残したい人のみを表示すればいいと思います。
- ・ 今は活動していないので、交わす情報がないため。
- ・ 相手の情報がどのくらい開示されているのかにもよると思います。交流するにはトラブルなく嫌な気持ちにならず、交流したいと思います。頻繁に連絡するのが負担なのか、否か、など相手のペースや人柄みたいなどころまで、わからないと、交流するには躊躇します。
- ・ 実体の見えない交流に不安がある。
- ・ あまり SNS のコミュニティサイトに参加することが好きではない。
- ・ 友人を作ることよりも学びを求めています。ネットでの交流は高めあっていける内容、最低限で十分です。

**Q9** この仮のインターネットサイトには、学習した本人の学習の記録などを掲載した学習者のページがあります。このページを見て、情報の過不足があれば教えてください。

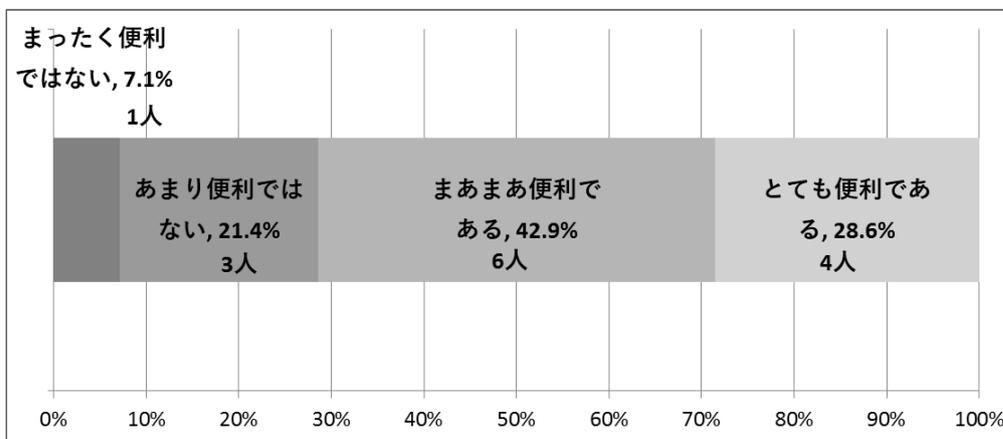
- ・ 特になし。
- ・ 自分の学習した記録を他人に見られるのは嫌だ。
- ・ 受講年月
- ・ 講師名
- ・ 簡単な内容
- ・ 費用
- ・ 特に思いつかない。
- ・ 取得した知識を活かせる場がどこにあるかの提示。
- ・ あしあとは…あまり好きではありません。
- ・ よくわからない。
- ・ 学習の記録、学習者のページは人によってはデリケートかもしれません。情報の過不足よりも、プライバシーやセキュリティの視点が気になります。公開、非公開も本人がある程度選べるとより良いのかも？

**Q10** バッジがあると便利だと思いますか。



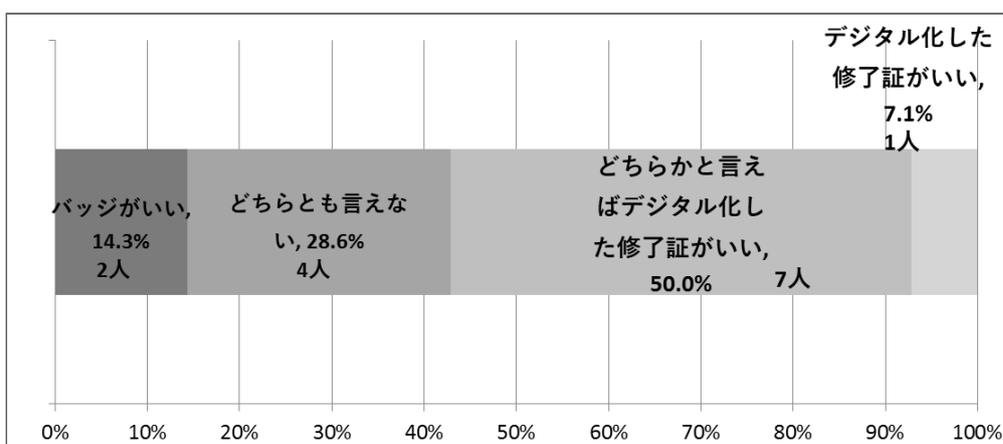
バッジは「まあまあ便利である」「とても便利である」を合わせると、71.5%にのぼる。

**Q11** バッジマップというボタンをクリックすると表示されるページに示されているように、複数のバッジを組み合わせて上位のバッジを取得することもできます。このような仕組みは便利だと思いますか。



複数のバッジを組み合わせて上位のバッジを取得する仕組みについて、「まあまあ便利である」「とても便利である」を合わせると、71.5%である。

**Q12.** このようなバッジのしくみと、従来の紙の修了証をデジタルにしたものでは、どちらがいいと思いますか。



●「バッジがいい」理由

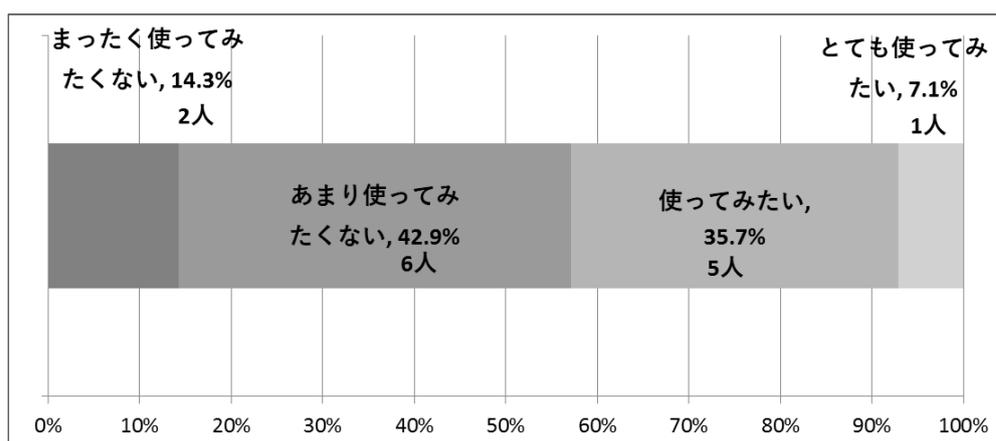
- ・ 修了証よりもコンパクトで、SNS 上などで表示しやすくかつ伝わりやすいため。
- ・ 理由はないのですが、両方欲しいかも。

●「どちらとも言えない」理由

- ・ 紙も実体があってよいと思いますし、保存することや、紛失することもあるので、データでのものもあればよいと思います。

- ・ 今まで活動をしてきて認証を提示してほしいと求められたことがない。
- 「どちらかと言えばデジタル化した修了証がいい」理由
- ・ 他人にわかりやすいと思うので。
  - ・ 紛失の恐れが少ないから。
  - ・ バッジだと少し軽い感じになる気がする。見やすさではバッジが良いが、重みという点ではデジタル化した修了証の方が良いかもしれない。
  - ・ バッチだと軽い印象を受けました。ゲームのご褒美のようなニュアンスでしょうか。
- 「デジタル化した修了証がいい」理由
- ・ バッジを身につける意味がよく理解できていない。

**Q13 他の学習者と情報交換のために、このインターネットサイトにネットワーク機能があったら、使ってみたいですか。**



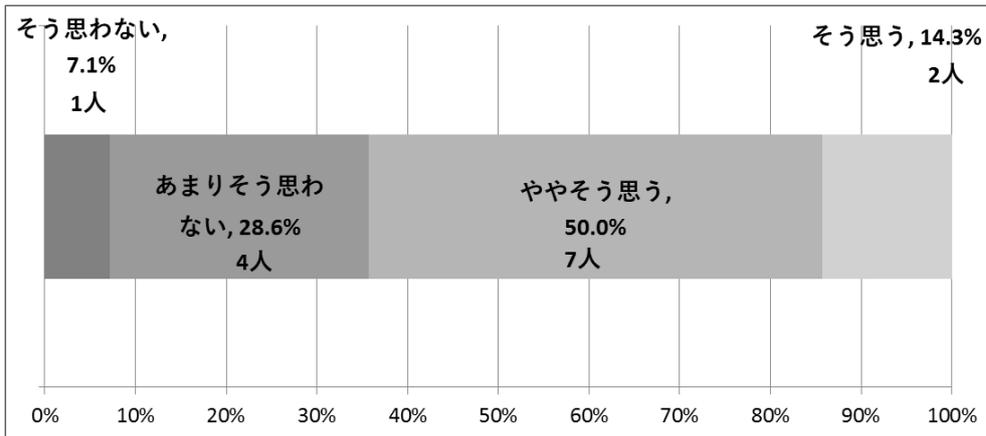
ネットワーク機能を「使ってみたい」「とても使ってみたい」を合わせても、42.8%にとどまっている。

- 「まったく使ってみたくない」理由
- ・ SNS はあまり好きではない。
- 「あまり使ってみたくない」理由
- ・ 学習者が不特定多数であることを考えると、サイトへの認証などで入り口を管理するのであれば、使ってみたい。
  - ・ バッジのしくみも修了証デジタル化もその時で違う気がします。信用されるものでその時々で使いやすい方を…と思います。しくみはデジタル化も大事ですが、1番は活かすことだと思うからです。

●「使ってみたい」理由

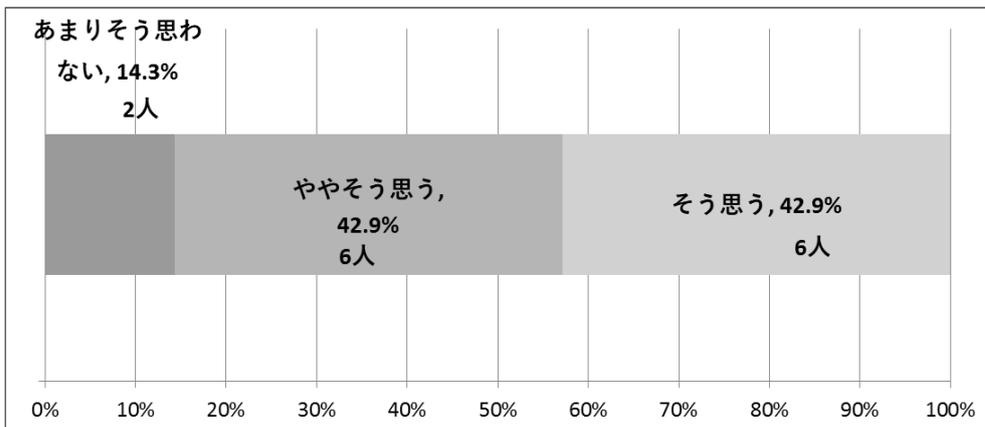
- ・ 他の学習者の学習の様子が参考になりそうのため。
- ・ 情報源の拡大と、ヒントになる活動の提供を求めるため。
- ・ やはりネット接続ができないと今風ではない。情報交換には便利かと思う。
- ・ 試してみたいから。

**Q14 学習後、学習者同士が友だちになりたいと思いますか。**



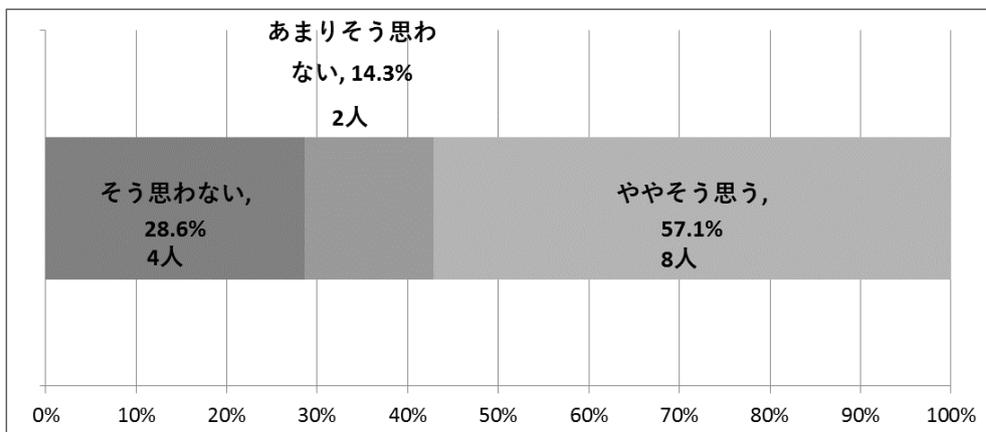
「ややそう思う」「そう思う」を合わせると 64.3%である。

**Q15 学習後、学んだことを活かした活動に参加してみたいと思いますか。**

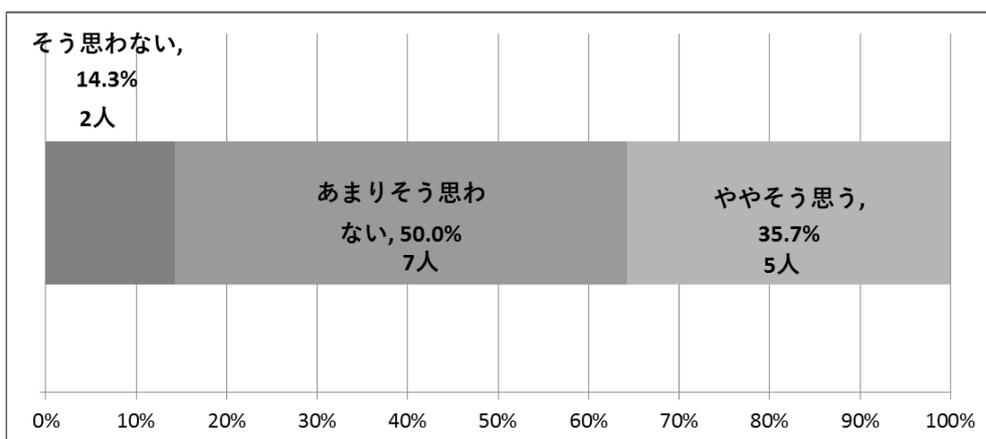


学んだことを活かした活動に参加してみたいと思っている人が、85.8%にのぼる。

**Q16 他の学習者にコンタクトしてみたいですか。**

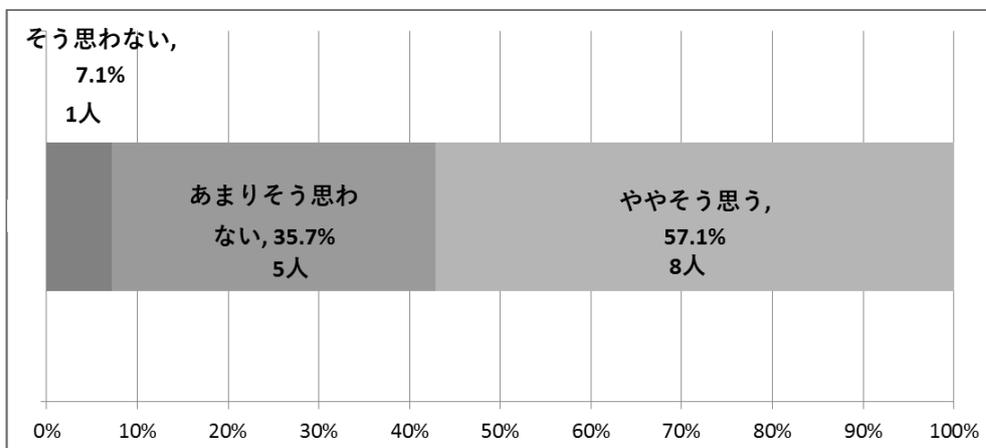


**Q17 参加した活動について、他の人に情報を拡散したいと思いますか。**



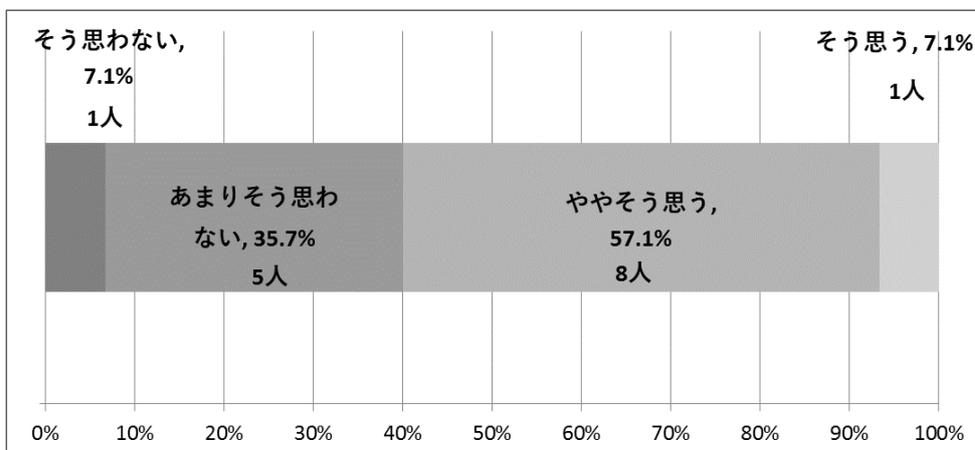
他の人に情報を拡散したいと思う人は、35.7%にとどまっている。

**Q18 友だちが拡散した情報を入手して、活動に参加してみようと思いますか。**

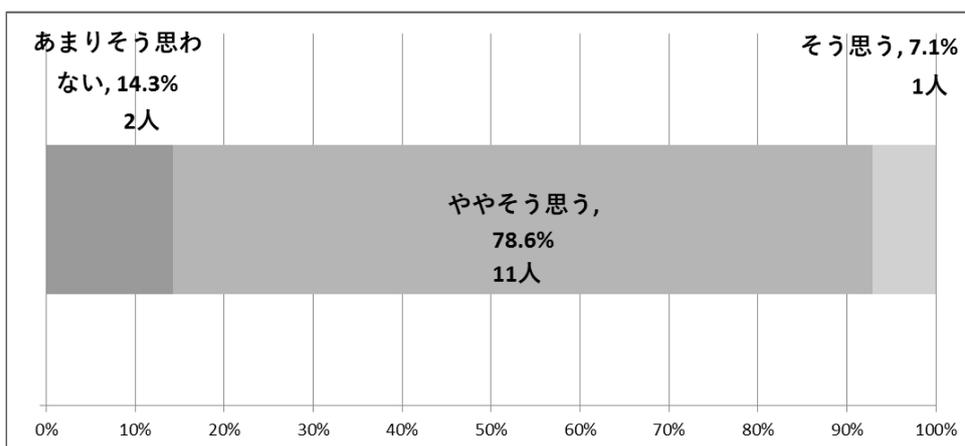


「友だちが拡散した情報を入手して、活動に参加してみようと思う」人は 57.1%。

**Q19 他の人の「確かに」ボタンを押したいですか。**



**Q20 プラットフォームに活動情報が掲載されていたら、参加してみたいと思いますか。**



**Q21 プラットフォームにあったらいいと思う機能**

- ・ 事前に分野選択～おすすめ  
上記に関連 ～関連でおすすめ  
参加者多い ～人気あり  
をクリックすると、活動情報のリストを確認することができる。
- ・ 有償、無償に関わらず、ボランティア募集情報活動の助成金募集情報
- ・ 内容の変更改編は何年間隔で行う考えでしょうか。カリキュラムは変更されるということが前提ですが、変更なく継続されるのでしょうか。主催者側として、初めにハッキリさせていただきたい。御成功祈念します!!
- ・ 地域別とか、ボランティアの対象(小学生とか、未就学児など)で、検索できると便利に感じました。
- ・ 企画等への協力者募集側
- ・ 同じ学びをした人たちの悩み相談や交流会情報

- ・ 特に思いつきません。
- ・ 使用してみないと何とも分かりませんが、不平不満(改善点)や意見、感想を述べてとどまることはなく、その都度アップデート出来る、時代に合わせて高め続けられるといいなと思います。また、地域の声、保護者の方の声、時には生の子どもの声も聞いていけるような知識、経験にとどまらない現場と近い学びが出来たら、共に進化し続けられるのかなと思いました。

### 3.1.2 学習者等のネットワーク化機能の検証のための項目

Q17の重みを考慮した平均値は0.178、Q18の重みを考慮した平均値は0.285であった。このことから、実証用サイトの普及係数は、以下の通りとなった。

$$\text{普及係数} = 0.178 \times 0.285 = 0.05$$

また、Q14の重みを考慮した平均値は0.25、Q15の重みを考慮した平均値は0.64、Q16の重みを考慮した平均値は0.28となった。

## 3.2 自治体

地域の課題を解決するための地域人材を募っている自治体に協力を依頼し、自治体と地域人材とのマッチングに資する機能を検証した。

また、本実証調査においては、第 1 章で示した仮の課題設定があるが、あくまで「生涯学習プラットフォーム(仮称)」の 3 つの機能が、人材を求める際の機能として役に立つものかなどを確認するための実証用サイトであることを前提として、協力してもらった。

ヒアリング調査の協力自治体は、下記の通りである。

- ① 広島県東広島市
- ② 埼玉県春日部市
- ③ 富山県富山市
- ④ 東京都 A 区
- ⑤ 東京都小金井市
- ⑥ 東京都小平市
- ⑦ 東京都国分寺市

### 3.2.1 東広島市教育委員会 生涯学習部 生涯学習課

#### (1) 調査対象の概要

東広島市教育委員会は、東広島市全体を学びのキャンパスとして「生涯学習パスポート」事業を運営している。「生涯学習パスポート」は、市民の学習意欲向上や学習成果の活用を目的として展開されている東広島市生涯大学システムの施策群の一環として、学習や活動歴などが記録できる学習記録票である。パスポートは、小学生用の「まなぶちゃんノート」、中学生用の「ジュニアパスポート」、大人用(エントリー用、エキスパート用)の 4 種類が配布されており、1 冊に 20~200 回の学習を記録して修了すごとにスタンプが押され、達成度合いに応じて市が認証した奨励賞が授与される。

本事業は平成 15 年度に開始され、当初は「東広島市生涯大学システム」に登録した者に対して、講座一覧が掲載された「生涯学習メニューブック」と併せて発行されていた。しかし、登録料が 500 円かかることや、単位認定基準が複雑で達成までのハードルが高いことなどが原因となり、登録者や市民に浸透しない時期が存在した。これらの課題を解決するため、平成 27 年 6 月にパスポートをリニューアルさせ、登録料を無料にし(登録制廃止)、奨励賞の規準を低くするなどして平成 28 年度から本格運用している。

各賞	奨励賞	マナビイ賞	まなびすと賞	備考
規準	100 単位修了	200 単位修了	300 単位修了	・登録制(登録料 500 円)、906 人が登録
平成 15～26	10	5	3	・30 分で 0.5 単位とする

図表 3-1 旧パスポート達成者の推移

各賞	ブロンズ賞	シルバー賞	ゴールド賞	プラチナ賞	ダイヤモンド賞
規準	賞状	賞状+500 円図書券、広報誌へ氏名記載	賞状+1,000 円図書券、広報誌へ氏名記載	賞状+1,500 円図書券、広報誌へ氏名記載	賞状+2,000 円図書券、広報誌へ氏名記載、生涯学習フェスティバルにて表彰
平成 27 年度	5	0	0	0	0
平成 28 年度	26	9	3	0	1
平成 29 年度	100	16	1	1	1

図表 3-2 新パスポート達成者の推移

※平成 29 年度の数値は平成 30 年 2 月 5 日時点のもの

(出典)東広島市教育委員会 生涯学習課「資料① 生涯学習パスポート達成者の推移」2018.2.6

## (2) 調査方法

東広島市教育委員会生涯学習部生涯学習課の担当者に、実証用サイトのデモンストレーションをご覧いただいた上でインタビューを行った。

日時	2018 年 2 月 5 日
場所	東広島市役所北館 (東広島市西条栄町 8-29)
対象者	東広島市教育委員会 生涯学習部生涯学習課 学習支援係長 道方浩司 氏 社会教育指導員 岡田良二 氏

## (3) ヒアリング内容の詳細

### 【学習機会の提供機能】

前提として、東広島市の運営する「生涯学習パスポート」事業において、大人用パスポート(エントリー用、エキスパート用)に記録できる学習は、市が年に 2 回発行する「学習メニューブック」に記載されている講座の受講に限定されている。<sup>43</sup>これらの講座は、約 290 の一般講座、110 の出前講座などのほか、市内各所で行われている自主サークル活動が掲載されている。講座の種類は多岐にわたり、語学や教育、パソコンや

<sup>43</sup> 「学習メニューブック」には全ての講座が記載されているとは限らないため、主催講座であれば原則としてスタンプを押印している。

国際交流など 13 の分野が用意されている。これらの講座情報の提供方法については、市の Web サイト、東広島市教育委員会生涯学習課、各生涯学習センター、各地域センター、中央図書館、各地域図書館で無料配布されている。

東広島市からは、実証用サイトの利点として①情報発信・管理の効率化、②学習活動の促進が挙げられた。さらに改善点として、③提供方法のカスタマイズが挙げられた。

①情報発信・管理の効率化については、第一に「学習メニューブック」で周知しきれない範囲にまで情報を行き渡らせることが可能になることが最大の理由である。次に、情報管理においては講座受講の申し込み受付や講座に関するアンケート、出席状況の管理などの利便性向上に期待ができるという意見であった。

②学習活動の促進については、今現在のシステムにそのような機能は盛り込まれていないため、学習を継続的に行うための働きかけとしては有効だと考えられるという。特にバッジマップはスキルアップという観点で若い世代の学習意欲促進に期待が持てる一方、生涯学習パスポートの主な利用者である高齢者は「趣味」として講座を受講している場合が多いため、世代に合わせた学習意欲の促進方法が必要ではないかという意見をいただいた。

改善点としての③提供方法のカスタマイズについては、講座の対象者によって情報提供の仕方を工夫することの重要性を指摘いただいた。例えば、地元の人を対象にする場合は、対象範囲の人にのみ表示されるといった操作ができるなどの工夫である。

### 【学習・活動履歴の記録・証明機能】

東広島市では現在、学習・活動の記録として世代ごとに学習記録用のノートを用意し、学習者が学習・活動履歴を直接記入・申請する仕組みとなっている。達成度合いに応じて 5 種類に分けられた奨励賞があり、上位 2 種類の賞については、東広島市生涯学習フェスティバルにて表彰される。さらに賞の種類によっては図書券を贈呈し、広報誌に氏名を掲載するなどしている。

実証用サイトでの学習・活動履歴の記録・証明機能に関しては、オンライン上でのバッジ付与が、具体的な実感を伴うものとなるのか懸念が残るという。また、マイページへ記録を更新し続けるためのモチベーション維持についても、何らかの工夫が必要なのではないかという考えであった。その理由として、ペンでノートに活動を記録したり、スタンプや奨励賞を具体的な形でもらうこと自体に魅力を感じている学習者が存在することが挙げられた。

また、学習・活動の内容についてはインフォーマル、ノンフォーマルを含んだものとして捉えるのがよいのではないかという意見もいただいた。その理由として、特に高齢者は先述したとおり「趣味」として学習・活動を行っている割合が高く、必ずしもそれらが実務的なものではないことが挙げられる。また、例えば小学校に招く講師として人材を探す際に「特技」(例:手品ができる、竹馬が作れる…)といったレベルの情報を必要とする場合もあるという。したがって、学習者が記録できる内容には可能な限り幅を持

たせる方が、学習者自身のモチベーション向上、或いは人材を探す側のニーズにも応えられる可能性が高まることが考えられる。

### 【学習者等のネットワーク化機能】

学習者間のネットワーク化については「自主サークル活動」が既に確立している。本活動は、大人用パスポートの利用者同士が講座等で出会い、地域センター、生涯学習センターが主催する講座が終了した後に、その受講者が活動を継続したい、もっと活動を発展させたいと自主的に集まって活動している団体のことである。

学習成果の活用に関しては、別段行っていないとのことである。地域コミュニティのつながりによる情報伝播を活用している。

実証用サイトのネットワーク化機能については、①学習者同士のネットワーク形成、②活動機会のマッチングの観点から意見をいただいた。

#### ① 学習者同士のネットワーク形成

学習・活動の継続において重要な要素である一方、地域的コミュニティの範囲が限られている場合においては、オンライン上で誰かとつながるメリットが見出せないという。何らかの学習活動に参加している者同士は既に顔見知りである場合が多く、対面でコミュニケーションをとることそれ自体を目的としていることが理由である。一方で、SNS等に慣れ親しんだ若い世代については有用である可能性があるという。

#### ② 活動機会のマッチング

行政が人材を探す際に、信頼性を担保できるのであれば非常に有効であるという意見をいただいた。既に東広島市が有する人材バンクが存在するものの、掲載内容は自己申告であるため、周囲からの口コミや過去の講師経験の評判等がない限りはほぼ活用していない状況にあるという。講師として声をかける際の決め手となるものは、(1)本人が講師として活動することを希望しているかどうか、(2)信頼できる人物の評価があるかどうか、(3)過去の講師としての活動実績はあるかどうか、などがあるとし、最終的には対面での面接を行って決めるという。そのため、実証用サイトにおいてはなるべく上記の3要素が確認できるものであると望ましいということになる。例えば、(1)であれば、マイページに学習成果を活用する意思表示をする機能を用意する、(2)は「確かに」ボタンを信頼している人物が押していることが確認できる仕様にする、さらには「確かに」ボタンを押した当事者からの推薦文を掲載する、(3)は過去の実績や、それを証明する資料(映像、書籍…など)があるとより良いとのことである。

#### **(4) 考察**

##### **【学習機会の提供機能】**

学習機会の情報提供については、より幅広い情報を、よりパーソナライズされた形で学習者に提案できる点は有効だと考えられる。さらに情報提供側にとっては、講座情報を発信する際の対象範囲をカスタマイズできること、講座の出欠やアンケート・評価情報等を管理する機能を利用できることは、作業の効率化や学習者側のニーズの把握、学習コンテンツの質向上を図ることを可能にすると考えられる。

##### **【学習・活動履歴の記録・証明機能】**

バッジを付与する学習・活動については、フォーマル教育、ノンフォーマル教育、インフォーマル教育など、レベルや種類を分けてマイページに表示することが重要であるといえよう。そうすることで、学習者側や人材を探す側(行政等)の学習・活動に対するニーズや傾向が捉えられると同時に、ユーザーの利便性も大きく向上することが考えられる。

##### **【学習者等のネットワーク化機能】**

既に学習者同士の「自主サークル活動」が存在することからもわかるように、学習者同士のネットワーク化は新しい学びのモチベーションになり得ることがわかる。若い世代を取り込むには、SNS等気軽に人とつながれる場を用意することは有効だと考えられる。

人材を探す側(行政等)にとっては、情報の信頼性が鍵となる。不特定多数の口コミよりも、関係の深い一人の紹介の方が重要視される現状に鑑みると、「確かに」ボタンは実名性を担保するものである方が望ましいといえる。その他にも、学習者が地域活動への貢献を希望する場合は、その意思表示や活動実績の証明となるものを確認できる仕様であることが望まれる。

学習者が単に学習・活動仲間を見つけるきっかけに終始するのではなく、生涯学習プラットフォームを介して培われる経験や人間関係が、学習者のキャリア形成に有効に働く作用を生み出すことができれば、学習者・人材を探す側(行政等)双方にとって生涯学習プラットフォーム(仮称)は欠かすことのできない存在となるだろう。

### 3.2.2 春日部市教育委員会 社会教育部 社会教育課

ここでは「春日部市生涯学習推進計画」に基づき、市民が学ぶ場を提供するだけでなく、学習結果をまちづくりに生かす仕組みを進めている春日部市を取り上げる。生涯学習に関する取り組みの状況および我々の提案する実証用サイトに対するご意見を「学習機会の提供」「学習・活動の履歴の記録・証明」「ネットワーク」といったそれぞれの機能ごとに紹介する。

春日部市は、平成 6 年度から「市民が生涯にわたって自己の充実、生活の向上を果たせるような生涯学習支援体制を整備し、市民の豊かな発想を取り入れながら生涯学習を通じて春日部市の活力とうるおいのあるまちづくりを進める」ために「春日部市生涯学習推進計画」<sup>44</sup>を策定するなど、生涯学習における市民の参加、学びの循環が意識された取り組みがなされてきた。また、「春日部市生涯学習都市宣言」<sup>45</sup>を掲げており、その中でも「わたしたちは、学んだことを地域で生かし、全ての市民がいきいきと活躍できるまちをつくります」と宣言している。「春日部市生涯学習推進計画」は数回の計画改訂を重ねているが、直近の平成 29 年度計画改訂においては、「市民の学習欲求に対応することはもちろん、地域の資源を活用した多様な学習機会を提供すると共に、学習成果が地域で生かされる仕組みをつくり、市民参加の促進が一層必要である地域の状況を反映させたものとする」という、より学びの循環に焦点を当てた方向性が示されている。

学習機会の提供としては春日部市の「生涯学習人材情報」<sup>46</sup>に登録している個人や団体によって行われる「かすかべし出前講座」「生涯学習市民塾」といった取り組みがあり、学習・活動の履歴の記録に関しては前年度委託調査において取り上げた「はるがく帳」といった特徴的な取り組みがある。

また、学習・活動への参加者は前年度ヒアリングを行った際と変わりなく、定年退職を迎えた高齢者が大多数を占めているという。

---

<sup>44</sup> 春日部市生涯学習推進計画改訂版(全文)

[http://www.city.kasukabe.lg.jp/bunka\\_sports/shougai/shogaigakushuplan.files/shogaigakushuushinkeikakukaiteiban.pdf](http://www.city.kasukabe.lg.jp/bunka_sports/shougai/shogaigakushuplan.files/shogaigakushuushinkeikakukaiteiban.pdf)

<sup>45</sup> 春日部市生涯学習都市宣言

[http://www.city.kasukabe.lg.jp/bunka\\_sports/shougai/toshisengen.html](http://www.city.kasukabe.lg.jp/bunka_sports/shougai/toshisengen.html)

<sup>46</sup> 学習や活動の指導者、講師、ボランティアとして市民の学習活動、文化活動、スポーツ活動等の生涯学習活動を支援する意思のある人材の情報が登録されたもの。

[http://www.city.kasukabe.lg.jp/bunka\\_sports/shougai/jinzaijoho.html](http://www.city.kasukabe.lg.jp/bunka_sports/shougai/jinzaijoho.html)

## (1) 調査対象・調査方法

調査は Web サイトを中心とした文献調査を行うと共に、春日部市教育委員会社会教育部社会教育課の担当者にインタビューを行った。

日時	2018 年 1 月 30 日
場所	春日部市視聴覚センター(埼玉県春日部市粕壁東 3-2-15)
対象者	春日部市教育委員会社会教育部社会教育課生涯学習推進担当課長兼春日部市視聴覚センター所長 根岸昌史氏

## (2) ヒアリング内容の詳細

### 【学習機会の提供機能】

#### (学習機会)

現在の春日部市における生涯学習の学習機会の提供としては、

- ① 「かすかべし出前講座」<sup>47</sup>…市民の要請に対して市民講師や市職員が出向いて行う講座。
- ② 「生涯学習市民塾」<sup>48</sup>…人材情報登録者<sup>49</sup>が 1～2 ヶ月間の講座を自主的に企画・運営する講座。
- ③ 「かすかべ遊学フェスティバル」…生涯学習の成果を発表する場。舞台での発表、展示だけでなく、講座の体験をすることもできる。

などを挙げることができる。どれも行政と市民が協働して作り上げているものであり、行政が主体となって行う事業もあるが、市民が自主的に行う学習・活動といった事業は、教育委員会が後援するだけでも平成 17 年度に 123 件、平成 27 年には 137 件と活発になっている。行政から人材情報登録者に講座を依頼することもあるが、登録者が自主的に講座開設の応募をし、開催されることの方が多という。また講座で学んだ市民が自治会役員として活躍するなど、学習成果を地域で生かしている事例もある。現在開催されている事業は全て対面形式であり、講師 1 人に学習者複数人がついて学ぶものである。今回の実証用サイトには、対面講座だけでなくオンライン講座も搭載されているが、このオンライン講座があれば会場に来られない市民もいつでもどこでも学ぶことができ、便利なのではないかとのことであった。また、講師を探す際に日本地図の広い範囲から探せることは便利であるが、自治体としてはなるべく近隣に住んでいる

<sup>47</sup> かすかべし出前講座 [http://www.city.kasukabe.lg.jp/bunka\\_sports/shougai/demae-koza.html](http://www.city.kasukabe.lg.jp/bunka_sports/shougai/demae-koza.html)

<sup>48</sup> 平成 29 年度生涯学習市民塾(後期)の受講者を募集します  
[http://www.city.kasukabe.lg.jp/bunka\\_sports/shougai/h29shiminjuku-koki.html](http://www.city.kasukabe.lg.jp/bunka_sports/shougai/h29shiminjuku-koki.html)

<sup>49</sup> 生涯学習人材情報に登録している人物のこと

方に依頼したい。そのため、埼玉県、春日部市といった自治体レベルで表示される地図が表示されるとより便利ではないかとのことであった。そして学習コンテンツや講師名、経歴、資格といったキーワード検索ができる機能が必要ではないかとのご意見もいただいた。

### 【学習機会の情報提供】

以上のような学習機会の情報を提供する方法としては、春日部市広報紙、春日部市ホームページ、春日部市の芸術文化のホームページ「遊学」<sup>50</sup>、公民館だより、生涯学習交流紙『遊学』<sup>51</sup>への掲載が挙げられる。また、講座を提供する民間教育事業所等でもチラシを発行するなど、幅広く情報を提供している。ただ、個人に対応した次の学習につなげるための情報提供はしていないため、このプラットフォームのマイページにおけるレコメンド機能はとても便利ではないかとのことであった。

また、エリアから講座を探す機能があるが、基本的に講座は市民を対象にしている。そのため、前述した講師の検索と同じように、自治体レベルの地図や検索できると、なお使いやすいのではないかとのことである。

### 【学習・活動履歴の記録・証明機能】

前年度調査の報告書において取り上げた通り、春日部市では平成 25 年から生涯学習パスポート「はるがく帳」<sup>52</sup>を導入している。この「はるがく帳」とは市民が学習目標を立てて、自らの学習内容や修得した資格、学習成果を生かしたボランティア活動や地域活動を記録する学習記録票である。1冊に100回の学習を記録し、修了するごとに市が単位認定賞を交付する。そして3冊修了すると奨励賞が授与される。導入から平成28年度までに約3000冊配布されている。

### 【学習・活動履歴の記録】

学習者は、「はるがく帳」を手にするると、まず学習目標・計画を記入する。その後、学習した内容・感想などを学習記録欄に1回につき1ページを使って記録していく。その際に学習を行った日時・学習活動の名称・場所・感想を手書きで数行書くことになっている。

この実証用サイトに「はるがく帳」の機能を搭載すると、参加した学習活動の日時や内容・感想はキーボードで入力し、単位認定賞、奨励賞は紙だけでなくPDFもしくは

---

<sup>50</sup> かすかべ遊学 <http://www.yuugaku-kasukabe.jp/>

<sup>51</sup> 春日部市生涯学習交流紙「遊学」  
<http://www.city.kasukabe.lg.jp/shisei/kouhou/hakkou/yuugaku/index.html>

<sup>52</sup> 春日部市生涯学習パスポート「はるがく帳」を配布しています  
[http://www.city.kasukabe.lg.jp/bunka\\_sports/shougai/pasupo-to.html](http://www.city.kasukabe.lg.jp/bunka_sports/shougai/pasupo-to.html)

バッジとしてマイページ上に表示されることになる。これについては懸念事項があった。

現在、「はるがく帳」の利用者は高齢者が多い。利用者からは、普段字を書くことが減っている中で、漢字を調べながら書くことは勉強になるという声が多く届いているという。つまり書くこと自体に価値を見出しているということである。また、利用者によっては自分で学んだこと、博物館・美術館で入手したパンフレット等を別冊ノートに記載したり、貼り付けたりして記録をしているという。自分の学習の履歴が簡単に管理でき、ノートに記載したり貼り付けたりしたものを PDF など電子化することは便利ではあるが、学習者の大半はノートそのものに学びの足跡としての価値を見出しているという。そして単位認定賞や奨励賞も画面で表示されるのではなく、紙という“もの”であるからこそ学習意欲に結びつくのではないかとのことである。また、現在の大多数の利用者である高齢者の多くはパソコン・スマートフォンを駆使することが難しいため、活用が難しい機能なのではないかとのことであった。

### 【証明機能】

バッジは、その人の学びの履歴や資格が一目で分かるので便利である一方で、懸念事項もあるということであった。講師依頼をする際に、最も重要視するのは信頼性であり、講師として採用して欲しいと売り込みにくる人物もいるがすぐに採用することはない。他の自治体で活動している履歴があれば直接その施設に連絡し、講師としての評判を聞き採用を検討する。そういった活動履歴がなければ、どんなに資格や経験があったとしても依頼しないケースが多いという。また、特定の分野の講師を探す際も婦人会、自治会の方々等すでに信頼関係を築いている人物からの紹介に頼ることが多いという。

この実証用サイトにおける経歴や資格の信頼性であるが、匿名の人物がどんなにある特定の学習者の経歴や資格に「確かに」ボタンを押していても、高評価のコメントを書いても信頼性には欠けるといふ。ただ、コメントを書き、ボタンを押す方の人物も本名であったり、自分の知っている人物であったりすれば信頼できるとのことであった。また、この第三者が本名でその学習者の経歴を証明する機能があることで、今まで依頼できなかった範囲の人にまで声をかけることができるという前向きなご意見もいただいた。

### 【学習者等のネットワーク化機能】

何度か前出しているが、春日部市には「生涯学習人材情報」という人材情報登録制度がある。これは「かすかべし出前講座」や「生涯学習市民塾」の講師・指導者・生涯学習推進のボランティアとして活動する意思のある市民が登録票を市の窓口に提出することで「生涯学習人材」として登録されるものである。現在、この生涯学習人材として登録され、実際に指導者、講師を務められた方々の交流会が定期的に行われており、それぞれの担当した講座内容、改善点等の意見交換をする場となっている。ただ、

はるがく帳の利用者同士の交流会等は設けていない。この実証用サイトにおいて学習者の情報交換の場が設けられていることは、スマートフォンの操作や SNS に慣れている 40 代までの利用者には有益である一方、高齢者には活用が難しいのではないかとのご意見をいただいた。

#### (4) 考察

現在、自治会への加入率自体が全国的に低下していると言われている。地域と個人の直接的な関係性が希薄になり、隣は誰が住んでいるのか分からない社会だからこそ、この ICT を用いた実証用サイトは、今まで地域とつながることにハードルを感じていた人々を地域活動に誘うきっかけとなるのではないだろうか。そうすることで、多様な人材の登用機会も増える。ここで重要となる「信頼性」は第三者の本名によるコメント、「確かに」ボタンといった証明機能によってある程度担保できると考えられる。

また、若年層をはじめとした、より多くの人々を巻き込んだ全員参加による課題解決社会を実現するためには、ICT は不可欠である。しかしながら、全員参加を実現させるためには、ICT との親和性が低い高齢者層への配慮も必要である。前述した「はるがく帳」における手書きの意義が提示するのは、ICT に精通していない人々への配慮だけでなく、デジタルではないからこそそのよさである。したがって、ICT 化すべきところ、すべきでないところ、その両方が共存する可能性についても検討すべき事項であると考えられる。

### 3.2.3 東京都 A 区 生涯学習課

#### (1) 調査対象の概要

東京都 A 区生涯学習課は、ユネスコ協会との連携や、公立学校を主会場として行う生涯学習講座をはじめとして、様々な学習活動の支援を行っている。また一方で社会教育活動を行う団体(サークル)への支援も行っており、学習者と社会教育活動のマッチングについても豊富な知見がある。

#### (2) 調査方法

当区の Web サイトを中心とした文献調査に加え、A 区生涯学習課の担当者に、実証用サイトをご覧いただきながら、インタビューを行った。

日時	2018 年 2 月 20 日
場所	A 区総合庁舎
対象者	A 区教育委員会 生涯学習課 社会教育主事

### (3) ヒアリング内容の詳細

#### 【学習機会の提供機能】

A 区は現在、区民に対して以下のような生涯学習の機会を提供している。

- ◎ユネスコ協会と連携した生涯学習活動を提供
- ◎教育機関と連携した講座の提供
- ◎社会教育館など教育施設で各種講座の提供
- ◎社会教育活動を行う団体(サークル)の支援
- ・・・区内で生涯学習活動を行う団体(サークル)を登録する制度があり、登録した団体は活動場所が安価で優先的に提供される。
- ◎学習活動の指導者の派遣や出張講座の実施 など

学習機会は多岐にわたって提供されており、また講座内容や申込み方法等についても、区の Web サイトや区報で掲載をしているが、学習情報や活動団体すべての情報を把握する難しさはある。もし実証用サイトにそれらの情報が集約されれば、学習者にとっても、提供者側にとっても有用だろうという意見だった。

#### 【地域人材とのマッチングについて】

プラットフォームにおける地域人材と学習者のマッチングについて、以下のような質問を行い、回答を得た。

問	地域人材や地域人材の情報を集めたり、地域人材を探したりするために、生涯学習プラットフォームを活用したいか。
答	活用したい。このプラットフォームをベースにして、地域のルールや地域情報が掲載されるなどのローカライズ(カスタマイズ)ができることさらに使いやすくなるだろう。

問	地域課題の解決のために、生涯学習プラットフォームは有効だと思うか。
答	課題が解決できるかどうかは、課題の内容にもよるが、課題解決の参考にはなる。

問	どのような地域人材を求めているか。
答	特定の何か(技術等)を教える指導者ではなく、共に活動する仲間になってくれる人材。つまり、活動における技能だけあれば良いわけではなく、活動自体を盛り上げてくれるような人材を求めている。

問	地域人材のどのような情報を入手したいか。
答	その人が有する技術の実績や情報だけではなく、地域活動に対してどのような考え方を持っているか知りたい。また、その人となりがわかるような他者評価などの情報も知りたい。地域の人材情報は多ければ多いほど良いと思う。行政としては、人材情報を管理するシステムを構築し、人材を登録してもらうことに専念す

るのではなく、その人材が活用される場面を作る、またはフォローしていくことも必要である。

### 【学習・活動履歴の記録・証明機能】

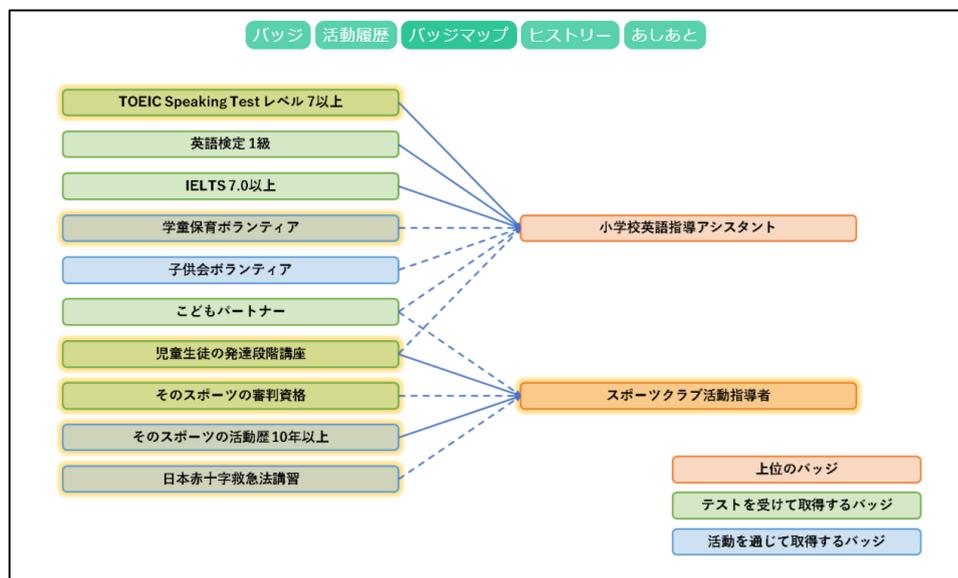
実証用サイトの学習・活動履歴を提示する機能をデモンストレーションしたところ、活動履歴(図表 3-3)は一覧になっているので閲覧しやすいと評価を得た。「確かに」というボタンの機能は、他者評価として参考になるが、不正が働かないような仕組みづくりが重要だという指摘があった。他者評価の機能で言うと、活動先からのメッセージを掲載するとか、活動先への来訪記録や活動先とのやり取りをする連絡帳などを掲載する「活動パスポート」のような機能を付与すると活動の広がりにつながるのではないかと、うアイデアをいただいた。

続いて学習履歴についてだが、学習履歴は個人情報にあたるので、徹底した管理が必要となる。A 区の場合、現在運営をしている生涯学習講座では、誰がどういった講座を受講したかなどの情報は一切データに残さないようにしている。不特定多数に個人の学習の履歴が提示されてよいのか、個人情報の面から難しさを感じるということだった。



図表 3-3 実証用サイトの活動履歴のページ

一方でバッジマップ(図表 3-4 については、活動や学習意欲の広がり期待でき、効果的な機能だろうという意見をいただいた。学習者にとっては、次の学びを検索する際、学びの種類がわかりやすくグルーピングされていることが肝要である。



図表 3-4 実証用サイトのバッジマップのページ

#### (4) 考察

A 区ではすでに学習者にも、社会教育活動団体などにも支援を行い、また区民の問合せに対し、団体を紹介するなどの対応を取ってきた実績がある。そこで、日々の現場対応で活用できるかイメージしていただきながら、実証用サイトのデモンストレーションをすることができた。

そして、現場で新たな学習希望者から「何か」学習をしたいという問合せを受けたとき、数多ある生涯学習から学習者の嗜好を探り、適切なアドバイスをお伝えするのに、ICT 型プラットフォームは有用であると認知された。

ICT を活用したプラットフォームにより、生涯学習に関わる全ての対応が可能になるかどうかは現段階では判断しがたいが、現場の対応を補完するものになるのは間違いがないだろう。

## 3.2.4 富山大学及び富山インターネット市民塾

### (1) 調査対象の概要

「学びたい人」と「教えたい人」を募り、そこで学んだことを「地域活動」へと展開する ICT プラットフォームをすでに提供している「富山インターネット市民塾」と、生涯学習、地域連携についての研究や実践に取り組む「富山大学」に取材した。

- 藤田公仁子教授 <富山大学 地域連携推進機構生涯学習部門>
- 柵富雄様、柵二三子様 <特定非営利活動法人 地域生涯学習プラットフォーム研究会>

### (2) 調査方法の詳細

2018年2月13日、富山大学 藤田研究室にてヒアリングを実施した。

### (3) ヒアリング内容の詳細

#### 【学習機会の提供機能】

- ・ 常に新しい情報提供がないと学習者が「生涯学習プラットフォーム(仮称)」に訪れる機会を減らしてしまう。
- ・ レcommend機能は、ICTではなく、相談員など「人」にしてもらいたい。
- ・ 有償の講座もあるが、それを払って受講する学習者も多い。

#### 【学習・活動履歴の記録・証明機能】

- ・ バッジ機能はあったほうが良い。また受講をポイント制にしたり、表彰されたりする機能も、学習者のモチベーションにつながるのであった方がよい。
- ・ 学習履歴が見える機能は重要である。
- ・ インターネット上の認証だけではなく、人と見せ合ったりできる認定証など「何か形ある物をもらう」というインセンティブもあれば、なお良い。
- ・ 「認証」の範囲をどこまで広げるかが課題である。講習を受講し達成した(「がんばったね!」というレベルの)認証なのか、英検や漢検のような検定レベルの認証のみなのか。いずれにせよ、課題がある。
- ・ (富山インターネット市民塾の場合)「e ポートフォリオ」という、小中学校・高校・大学・成人の過程を通じた家庭・地域・職場における、一人ひとりの経験や学びの成果(能力・スキル情報)を蓄積したデータベースを使ったり、「e パスポート」のように、評価委員会が発行するようなものを使ったりしているが、その存在自体を自治体や関連する機関が認知していないと持っていて使えない。認証が期待される効果を発揮するためには認証自体の認知やその価値(通用性)を広める環境づくりが必要である。

- ・ 全国共通の「生涯学習パスポート」ができれば、それは確かに今までにないものだし、国がやるべき意味がある。また、持っていることで、ステータス感、お得感のあるものだと、学習者が取得しようというモチベーションになる。
- ・ 富山大学では、講座を修了した学習者に対して学長名で修了証明書を発行している。

### 【学習者等のネットワーク化機能】

- ・ 学習者同士が語り合えるサロンのような場所は必要である。仲間作りや横のつながりを増やすことも、学習者のモチベーション維持につながる。

### 【その他】

- ・ 運営側に直接質問ができたり、アンケートをとったり、学習者からの意見が常に吸い上げられる環境づくりも必要である。
- ・ このモックアップの入り口では、すべての学習者を同一の生涯学習活動レベルでとらえているが、生涯学習活動をしたことがない人もいれば、学習をくり返して次を探してさまよっている人もいる。たとえば「はじめて学ぶ方へ」「学びを深めたい方へ」と入り口をわけてもよいのではないか。
- ・ 「生涯学習プラットフォーム(仮称)」のようなものには、すでに様々な NPO 団体が独自に提供するものもある。しかし、それぞれが個別に運営されていて、認証や認定についての互換性は皆無である。これらに横ぐしを通せる何かがあれば、より円滑な普及展開が見込めるのではないか。
- ・ 学びと活動の循環は、むしろ、循環ではなくスパイラルであるにとらえるとその本質がわかりやすいのではないか。それぞれの地方の産学官が一体となって地域をひいては日本を盛り上げる仕組み作りが必要である。
- ・ 提供者側の論理で考えてプラットフォームを構築してはならない。学習者にとって、面白い活動事例や、興味のあるコミュニティが紹介されていたり、知りたい情報が検索できたりといったことが、活用度に関係する。学習者が充実してくれば、「このプラットフォームには優秀な人材がいる」という認知により、行政や企業なども訪れるようになり活性化するのではないか。

### (4) 考察

「生涯学習プラットフォーム(仮称)」は、ICT のみで完結するものではなく、その地域に住む人々のアナログな営みも巻き込んでいく場でなければいけない。その中で ICT の果たすべき役割とは、最低限以下のようになるのではないか。

- ・ パスポートの通用性の担保。パスポートについての地域の理解、パスポートの存在の周知(PR)も必要
- ・ コミュニティや人材の在り処、次の学びや活動の情報提供

また、その普及展開のためには、場の外形を単純に移植するのではなく、その場を生み出した人の営み、プロセスを移植することが必要であると感じた。

### 3.2.5 東京都小金井市

#### (1) 調査対象の概要、実態

東京学芸大学は、小金井市、国分寺市、小平市と連携し、平成 19 年度より教育支援人材の養成に関する研究の一環として、「三市連携講座」を実施している。例えば、子どもの教育を支援するための「こどもパートナー講座」や特別支援に関する講座を開講している。

東京学芸大学こども未来研究所から紹介していただき、小金井市にヒアリングすることになった。

小金井市生涯学習課の業務内容は、以下の通りである。

- ① 生涯学習に係る総合計画、施策の推進に関すること。
- ② 社会教育委員に関すること。
- ③ 生涯学習に関する調査、資料の収集及び広報に関すること。
- ④ 社会教育指導者の育成及び研修に関すること。
- ⑤ 社会教育団体の育成援助に関すること。
- ⑥ 部内の事務事業の調整に関すること。
- ⑦ 部課内の庶務に関すること。

本実証における調査対象の小金井市教育委員会生涯学習部 生涯学習課生涯学習係は、放課後子ども教室を運営している部署であり、市内の小中学校に派遣され、学校の教育支援を行っている地域コーディネーターと学習アドバイザー、安全管理員(ボランティア)との調整を行っている。

放課後子ども教室を担っているのは、学習アドバイザー、安全管理員などのボランティアである。放課後子ども教室を充実させるためにも、地域のボランティアの情報を収集し、適任のボランティアを探している。実際は、各学校に派遣されている地域コーディネーターがボランティアを探したり、学校にボランティア募集のチラシを配布したりしている。しかし、なかなか見つからないのが現状である。地域のボランティアとのマッチングは重要な課題である。

また小金井市ではさまざまな課が講座を開いているので、講師の情報や講師としてふさわしい地域人材を探していると思われる。現状は、紙で講師のリストを保管しているが、デジタル化されたデータベースがあれば役立つのではないか。

## (2) 調査方法

別紙のアンケートとヒアリングシートをもとに、実証用サイトの Web ページ、及び学習コンテンツを閲覧していただき、ヒアリングを行った。

日時	2018年2月1日(木) 13:00～14:20
場所	小金井市役所
対象者	小金井市教育委員会生涯学習部 生涯学習課生涯学習係 主任 吉楽泰明氏

## (3) ヒアリング内容の詳細

### 【生涯学習プラットフォーム(仮称)を活用した地域人材のマッチングについて】

問	地域人材や地域人材の情報を集めたり、地域人材を探したりするために、生涯学習プラットフォームを活用したいか。
答	個人的には活用したいが、昨今の子どもを取り巻く様々な事件は、PTA関係者等子ども関係者が加害者となることもあり、やはり、人間関係のある信頼できる方に担ってもらいたいという意見が現場には根強く残っている。

問	地域課題の解決のために、生涯学習プラットフォームは有効だと思うか。
答	個人的には有効だと思う。 ボランティアの担い手が増えていけば、放課後子ども教室の充実を図ることができる。地域で子育て環境を整えることは、重要な地域課題の解決になる。

問	地域人材を探すためにプラットフォームを活用したいと思うか。
答	個人的には活用したい。 登録者がたくさんいるのであれば、ぜひ活用したい。多くの人材の中から、適切な地域人材を見つけたい。

問	どのような地域人材を求めているか。
答	安全管理員(子どもの安全見守り) また、子どもの生きる力を育成するために、強く生きるためのノウハウを教えることができる地域人材を求めている。地域人材が子どもに教えることはたくさんある。 地域で子どもを育てていくことが地域の活性化にもつながる。

問	地域人材のどのような情報を入手したいか。
答	地域のボランティアの情報、講習会の講師の情報

### 【学習・活動履歴の記録・証明機能】

英検、TOEIC のような資格であれば、資格の有効性は信頼できる。しかし、資格が有効かどうかわからないものもある。また、バッジ制度自体まだ認知度が低いのではないかな。

また、小金井市では、さまざまな講習会を開催している。現状では、サークルの学習会、公民館の学習会、コミュニティ文化課の講習会など個別に講習会やセミナーが開かれているが、講師情報などを共有していない。デジタル化された講師データベースを作成し、講師がどのような資格を持っているかを知ることができれば、個人的には大変有効と思われる。

また、「確かに」ボタンのように、プラットフォームの中で知り合いが推薦する仕組みは、他者からの評価が得られている証にもなり、信頼できる。

問	仮のインターネットサイトで学習者の活動履歴を閲覧しやすいと思うか。
答	個人的には探しやすいと思う。 利用者が増えれば使いやすくなると思う。

問	仮のインターネットサイトで学習者の学習履歴を閲覧しやすいと思うか。
答	個人的には閲覧しやすいと思う。 地域人材を探すとき、学習者の学習履歴を参考にすることができる。

問	仮のインターネットサイトで学習者が得たバッジを見つけやすいと思うか。
答	個人的には見つけやすいと思う。

### 【学習者等のネットワーク化機能】

問	仮のインターネットサイトで学習者とコンタクトしてみたいと思うか。
答	あまりコンタクトしてみたいと思わない。 昨今の子どもを取り巻くさまざまな事件は、PTA 関係者等子ども関係者が絡むこともあり、データだけではなく、信頼できる方に担ってもらいたい要素も大きい。

学習アドバイザー、安全管理員を募集したいため、各学校のコーディネーターに適任者を紹介してほしいと依頼したり、人的ネットワークの中から探したりしているが、なかなか見つからないのが現状である。

しかし、昨今の子どもを取り巻く様々な事件は、PTA関係者等子ども関係者が加害者となることもあり、データだけではなく、信頼できる方に担ってもらいたいという現場の意見が根強い。

#### (4) 考察

ボランティアなどの地域人材が、子どもの安全を見守り、また学校以外の場所で子どもを教育している。地域ボランティアを確保し、学校現場でうまく活用していくことは、地域課題の解決につながる。プラットフォームを活用して、積極的に地域人材を確保していきたい。

自治体が単独で地域解決のためのプラットフォームを構築することは困難が大きいため、複数の地域で共通した「生涯学習プラットフォーム(仮称)」が主体的につくられることを期待している。機能をたくさん盛り込むというよりも、現状の機能を絞り込んで機能を向上させるのがいいと思う。

また多くの登録者、利用者がいてこそ、プラットフォームが活性化するため、商用化にあたっては一般利用者、行政とも完全無償利用にする等、利用者の確保がポイントとなるだろう。

### 3.2.6 東京都小平市

#### (1) 調査対象の概要、実態

小平市でも、三市・東京学芸大学連携地域教育スタートアップ講座「子どもの学びを支えよう～子どもに合わせた学習支援～」を実施している。

調査対象の小平市教育委員会教育部地域学習支援課は、講座を通して学校支援ボランティア、特に学習支援や特別支援教育に係るボランティアの養成・スキルアップを図っている。

講座の企画・運営等を受託しているNPO法人東京学芸大こども未来研究所から紹介していただき、小平市にヒアリングすることになった。

#### (2) 調査方法

別紙のアンケートおよびヒアリングシートをもとに、実証用サイトの Web ページおよび学習コンテンツを閲覧いただき、ヒアリングを行った。

日時	2018年2月1日(木) 15:00～16:00
場所	小平市役所
対象者	小平市教育委員会 教育部 地域学習支援課 課長補佐兼事業推進担当係長 藤田將史氏

#### (3) ヒアリング内容の詳細

##### 【学習機会の提供機能】

小平市は、地域で学習支援や特別支援教育に係るボランティアをしたい住民などを対象に、「子どもの学びを支えよう～子どもに合わせた学習支援～」の講座を無償で

提供している。同講座は全 7 回であり、1 回ごとに申し込むことになっている。講座の案内チラシは市内公共施設に置いてPRに努めており、各回のタイトル及びねらいは下表の通りである。

番号	講座タイトル	講座のねらい
1	教育支援者とは	共通
2	地域で安心して暮らすためのサポート ～知的障がい・発達障がいの支援のあり方～	特別支援
3	中学生をやる気にさせる学習サポート ～数学編～	学習支援
4	読み書きのくせから探る適切な学習支援 ～学習障がいの傾向のある子ども支援～	特別支援
5	中学生をやる気にさせる学習サポート ～英語編～	学習支援
6	勉強が苦手な子どもとのコミュニケーション	学習支援
7	発達障がいとは ～本当に必要な支援と配慮～	特別支援

### 【生涯学習プラットフォーム(仮称)を活用した地域人材のマッチングについて】

地域人材の情報を集めたり、地域人材を集めたりするために、また、地域人材を探すために生涯学習プラットフォーム(仮称)を活用したいとあまり思わない。

その理由は、以下の通りである。

- ①プラットフォームは人材バンクに近く、成功事例が少ないからである。登録者が常に情報を更新しているのかどうか分からない。
- ②学校で教える人は、スキルを備えていることはもちろんのこと、スキル以上に人柄が大事である。人柄は、データから読み取ることはできない。人づての紹介が間違いなく、安心できる。

実際、講座受講生からボランティアを募集する方法は、講座の終了時に、ボランティア登録シートを配布し、回収した物の個人情報をもとに各小中学校に配布している。学校から市に問合せがあれば、ボランティア希望者の個人情報を伝えている。

ただし、そうしたリアルな募集方法では限界があり、数多くボランティアを確保しなければならないときに、補完的にプラットフォームを利用することは有効である。

問	地域人材や地域人材の情報を集めたり、地域人材を探したりするために、生涯学習プラットフォームを活用したいか。
答	あまり活用したいとは思わない。 信頼できる地域コーディネーターに相談し、地域コーディネーターから紹介してもらうのが、一番信頼できる。

問	地域課題の解決のために、生涯学習プラットフォームは有効だと思うか。
答	あまり有効だと思わない。 (上記の理由による。)

問	地域人材を探すためにプラットフォームを活用したいと思うか。
答	あまり活用したいとは思わない。 (上記の理由による。)

問	どのような地域人材を求めているか。
答	学習支援や特別支援教育に係るボランティア、中学校放課後学習教室で中学生に対する学習支援を行うボランティアを発掘したい。

### 【学習・活動履歴の記録・証明機能】

問	仮のインターネットサイトで学習者の活動履歴を閲覧しやすいと思うか。
答	活動履歴を閲覧しやすいと思う。 あくまで補完的にサイトを利用するのが前提ではあるが、信頼している地域コーディネーターが「確かに」ボタンを押していたり、その地域コーディネーターとつながりのある人であれば、信頼できるかもしれない。ただし、実際には地域コーディネーターに連絡して、適任のボランティアを探してもらう方が早道かもしれない。ICT では、人柄がわからないのが難点である。

問	仮のインターネットサイトで学習者の学習履歴を閲覧しやすいと思うか。
答	閲覧しやすいと思う。とてもわかりやすい。

問	仮のインターネットサイトで学習者が得たバッジを見つけやすいと思うか。
答	見つけやすいと思う。

## 【学習者等のネットワーク化機能】

問	仮のインターネットサイトで学習者とコンタクトしてみたいと思うか。
答	人づてでボランティアが集まらないとき、補完的に利用するのはいいと思う。 ただし、あくまで信頼できる地域コーディネーターとネット上でつながりのある人とか、その地域コーディネーターがネット上で推薦している人であればいいのではないか。

### (4) 考察

小平市は、地域課題解決のための地域人材を求めているが、あくまでも信頼できる地域コーディネーターから紹介してもらうのが有効と考えている。

ただし、補完的に「生涯学習プラットフォーム(仮称)」を活用することは有効ととらえている。そのため、ICTによりどれだけ信頼性を高めることができるかが鍵となる。例えば、登録者が常に情報をアップデートするだけでなく、常に情報が更新されるしくみ、利用者に最新の情報を提供するなど、機能面、運用面で工夫する必要がある。

## 3.2.7 東京都国分寺市

### (1) 調査対象の概要、実態

調査対象の国分寺市子ども家庭部子ども若者計画課は、地域住民向けにさまざまな講習会を実施している。そのため、幅広い分野の講師候補を求めている。たとえば

- ・専門的分野(心理学、希望学、精神医学など)。
- ・地域のコミュニティなど実践を交えたソフト面の分野。
- ・地域で活動している人材(特に子育て分野)。

また、地域のさまざまな情報を集めている。

- ・地域人材がどのような活動履歴があるか。
- ・地域人材の得意分野。

さらに、国分寺市は地域コミュニティを再構築しようとしている。国分寺市には地域の文化が残っている。国分寺ならではの祭りなどの伝統的な文化の継承を図っており、地域人材と連携を図りたいと考えている。

### (2) 調査方法

別紙のアンケートとヒアリングシートをもとに、実証用サイトの Web ページ及び学習コンテンツを閲覧していただき、ヒアリングを行った。

日時	2018年2月14日(水) 10:00～11:30
場所	国分寺市役所
対象者	国分寺市子ども家庭部 子ども若者計画課 若者支援担当係長 山川結美氏 国分寺市子ども家庭部 子ども若者計画課 高山知之氏

### (3) ヒアリング内容の詳細

#### 【学習機会の提供機能】

講師をはじめとする地域人材の情報や地域人材を集めるために、生涯学習プラットフォームを活用したい。実際、講習会の講師を探すときは、プラットフォームを使用することができれば、選択肢が広がる。人のつて以上のものをプラットフォームが用意することができれば、相乗効果が生まれる。

ただし、運用上の問題を解決する必要がある。たとえば自治体が共通の ID、パスワードを使用すると、だれが閲覧したかわからなくなってしまう。そのため、自治体のどの部署が閲覧したかがわかるように、「あしあと」機能をつける必要があるのではないかと。

### 【生涯学習プラットフォーム(仮称)を活用した地域人材のマッチングについて】

問	地域人材や地域人材の情報を集めたり、地域人材を探したりするために、生涯学習プラットフォームを活用したいと思うか。
答	「そう思う」1名、「ややそう思う」1名。

問	地域課題の解決のために、生涯学習プラットフォームは有効だと思うか。
答	「ややそう思う」2名。

問	地域人材を探すためにプラットフォームを活用したいと思うか。
答	「そう思う」1名、「ややそう思う」1名。

問	どのような地域人材を求めているか。
答	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門的(心理学、希望学、精神医学など)分野と、地域のコミュニティなど実践を交えたソフト面敵な分野。</li> <li>・地域で活動している(自治会に属しているかなど)人材(主に子育てなど)。</li> </ul>

### 【学習・活動履歴の記録・証明機能】

問	仮のインターネットサイトで学習者の活動履歴を閲覧しやすいと思うか。
答	「そう思う」1名、「ややそう思う」1名。 (理由:項目ごとに情報があり、見やすいと思った。)

問	仮のインターネットサイトで学習者の学習履歴を閲覧しやすいと思うか。
答	「ややそう思う」2名。 (理由:必要情報がすぐ目に届いてくる。)

問	仮のインターネットサイトで学習者が得たバッジを見つけやすいと思うか。
答	「ややそう思う」2名。 (理由:すぐ目につく。種別ごとに端的に情報が入ってくる。)

バッジは資格を持っていることの証明であり、他者からの評価なので、信頼できる。

### 【学習者等のネットワーク化機能】

問	仮のインターネットサイトで学習者とコンタクトしてみたいと思うか。
答	「そう思う」1名、「ややそう思う」1名。 (「ややそう思う」と回答した人は、コンタクトの方法による)

学習者同士のコンタクトの方法は、個人情報の問題があるので、プラットフォーム内でのみ連絡できるのが望ましい。コンタクトをとろうとしても、すぐに返事があるかどうか不安である。そのため、最初のコンタクトはプラットフォーム内でやりとりし、2～3日たっても返事がない場合、システムから連絡するという仕組みがいいのではないかな。

いったん学習者同士がやりとりできれば、その後は当事者同士で連絡をとり合えばいい。

### 【運用上の課題および要望事項】

プラットフォームを活性化するには、常に新しい情報が掲載され、情報が更新されていないなければならない。そのため、頻繁にアクセスしている人、頻繁にページを更新している人は、上に表示するようにする。

プラットフォームにアクセスする人にとってメリットが与えられると、いいのではないかな。ネット上のコミュニケーションを密にするためのしくみが必要だろう。

どうしたらプラットフォームが活性化するかという視点で考えてほしい(常に情報が更新されているのは、プラットフォームが活性化している証である)。

### (4) 考察

地域社会を活性化するためにも、「生涯学習プラットフォーム(仮称)」は大きな役割を果たすと考えられる。

そのためにも運用面の課題をクリアする必要がある。地域の学習者、自治体、地域で活動している地域人材がプラットフォームを活発に利用しようと、モチベーションを高めるための仕掛けが求められる。

## 3.3 企業

民間事業者が展開している学習機会の提供を、ICT を活用して収集し、地域に貢献したいと考えている学習者、人材のために提供する学習機会として充実させ、さらなる学習活動への展開を支援するために、「生涯学習プラットフォーム(仮称)」がどのような要件を備えるべきかを検証する。

また、学習機会の提供機能については、既存の民間事業者のサービスの中にある学習機会のリストをオンライン、オフライン共に収集する方法を検討する。

調査する項目は以下の通りである。

- ・ 学習者の学習・活動履歴に応じた関連のある講座等をオンラインで推薦(レコメンド)する機能
- ・ 学習者の状況に応じた目標設定、学習意欲の持続を支援する機能
- ・ 従来 of 対面による交流や次につなげる相談、他者による学習・活動の評価を取り入れる機能

### 3.3.1 LinkedIn

#### (1) 調査対象の概要、実態

LinkedIn は、ビジネス特化型ソーシャルネットワーキングの企業である。利用者は全世界で 5 億人近く、特に米国とオーストラリアでは、ホワイトカラー職に就く人間の 9 割以上が LinkedIn の SNS プラットフォームに参加し自分のプロフィールを公開しているほどで、大変に広く利用されている。

同社は、「Create economic opportunity for the every member of the global workforce」というビジョンを掲げ、世界中のすべての仕事をする人のために有益な経済的な機会を与えていこうとしている。

同社は海外の人材流動性を背景に、より高い地位を得たいホワイトカラーとより優秀な人材を採用したい企業のマッチング及びホワイトカラーのスキルアップのための方策を用意している。

同社がターゲットとしているのは、世界中のホワイトカラーワーカーである。同社の調査によると、全世界のホワイトカラーワーカーは約 6 億人おり、同社の現在の利用者は約 4 億 6700 万人にのぼる。

これら利用者のうち転職希望者が全体の 2~3 割程度で、残りの 7~8 割のユーザーが、ビジネスマンとして自分自身の特性を生かしたネットワークづくりを主な目的としている。

世界の国別でみると、アメリカ合衆国のホワイトカラーワーカーにおける同社の浸透率は 90%以上(約 1 億 1300 万人)、オーストラリアでは 98%以上(約 800 万人)。現在最も成長しているのがアジア圏である。

## LinkedIn Learning

同社は、Web 上で学習できる Learning System を構築し、LinkedIn Learning というサービスを提供している。2015 年、オンライン学習の Lynda.com を買収し、Lynda のコンテンツを中心に語学、ビジネス、テクノロジー分野のコンテンツ 1 万コース以上を揃えている。

### (2) 調査方法

別紙のヒアリングシートをもとに、ヒアリングを行った。

日時	2018 年 2 月 14 日(水) 13:00～14:00
場所	東京 丸の内 丸の内ビルディング 34F LinkedIn Japan オフィス
対象者	Mr. Garrell Malacad LinkedIn Japan Global Account Director

### (3) ヒアリング内容の詳細

#### 【他社との連携の可能性】

同社は、登録者に対して学習コンテンツを提供している。今後、生涯学習プラットフォーム(仮称)に、他社の学習コンテンツと共にプラットフォームに同社の学習コンテンツを掲載する可能性をヒアリングした。

API 連携の制度はあるが、非常に限られている。登録者の情報を守るという観点からも、他社との連携はむずかしいと思われる。

同社は、法人向けサービスが 9 割を占めている。同社と契約した法人の Learning Management System に学習コンテンツを掲載し、法人の学習者はコンテンツを利用することができる。

しかし、今後オープンなインターネット上に同社の学習コンテンツを公開するには、学習コンテンツを開発した会社との知的財産権の関係でむずかしい。

#### 【学習機会提供機能】

同社と契約した法人の学習者は、同社の学習コンテンツを活用できる。

また、同社の学習機会提供機能は、法人契約を結んだ企業の学習者に対して、基本プロフィールに沿って、受講するコースをRecommendする機能を備えている。

法人は、ユーザーがどのコースを学んだかを把握することができ、また継続的にどのようなコースを学んだかをトレースすることができる。

しかし、一般のユーザーについては、どのコースを継続的に学んでいるかについてはトレースすることができない。

## 【学習コンテンツ】

コンテンツ開発部門のコンテンツの品質管理は厳しく、相当の開発費を投じ、高い品質のコンテンツを開発している。実際、コンテンツ開発のためのスタジオをもち、映像制作している。したがって、他社が開発した学習コンテンツを LinkedIn Learning のシステムに搭載してほしいと要望されても、同社のコンテンツのレベルに合致しない可能性が高い。その意味でも、他社との連携はむずかしい。

また、同社の学習コンテンツを他社のプラットフォームに無償で提供することはできない。

## 【学習・活動履歴の記録・証明機能】

利用者は、自身のプロフィールページに「資格」や「スキル」を掲載する。「資格」は同社が提供する LinkedIn Learning や、提携している企業が認定している資格であれば、取得と同時にプロフィールページに認証バッジが付くようになっている。提携外の資格や特定の資格がないスキルの場合は、利用者が自身のプロフィールページに資格、スキルを記入し、LinkedIn 上でつながりを持つ人に資格やスキルを推薦してもらう必要がある。何人の知り合いがそのスキルを推薦したかはプロフィールページ上に表示される。

同社のシステムには、コースを受講したことをデジタル証明する機能があり、学習者にデジタル修了書を発行している。ただし、オープン・バッジについては不明である。

なお、資格・スキルと同様に、利用者の人格についても他人からの推薦を受けることでこれを保証するシステムが出来上がっている。利用者は、つながりのある人の中から推薦文を書いてもらいたい人に依頼をする。相手が推薦文を書くと、自身のトップページにそれが表示される。

### 3.3.2 ストリートアカデミー株式会社

「生涯学習プラットフォーム(仮称)」における「学び」と「実践活動」の循環に資する機能として挙げられた「学習機会の提供機能」、「学習・活動履歴の記録・証明機能」、そして「学習者等のネットワーク化機能」の 3 つの機能について、これらに近いものを現時点で既に提供し成功している国内事例として、「学びたい人」と「教えたい人」のマッチング・サービスを手掛けるストリートアカデミー株式会社にヒアリングを行った。

これら 3 つの機能について解決すべき課題や構築のために取り組むべき事項については、平成 28 年度調査研究で一旦整理がなされている。しかし、今回のヒアリングにあたっては、その整理された内容にはこだわらないように留意した。社会課題を背景にベンチャー企業として立ち上げられた同社より「生涯学習プラットフォーム(仮称)」が学ぶべきことに、ヒアリングの場での意識を向けたかったからである。自治体へのヒアリングのように、“本調査研究のために構築された「実証用サイト」を対面でデモンストレーションしながら、その機能等について先方の意見を伺う”ということはず、同社のストーリーを聞かせてもらう機会とした。

#### (1) 調査対象の概要

ストリートアカデミー株式会社は 5 年半前(2012 年 7 月 17 日)に設立されたベンチャー企業で、現在、次の 3 つの事業を展開している。

- ・ まなびのマーケット「ストアカ」の企画/運営
- ・ 社員向け選択型教育サービス「ストアカ for biz」
- ・ 企業研修への講師派遣「オフィスク」

日本最大級のスキルシェアサービスである「ストアカ」は同社のメイン事業で、イベント告知サービスの形で「学びたい人」と「教えたい人」のマッチング機能を提供している個人向けのサービスである。一方、「ストアカ for biz」は企業向けのサービスで、メンバー企業の社員が社員研修の一環として“自分の望む学び”を「ストアカ」から選択することができる、というものである。現在「ストアカ」には「学びたい人」として 17 万人の生徒と「教えたい人」として 12,000 人の講師(1,800 の法人・団体アカウントを含む)がユーザー登録している。学びの機会として 170 ジャンルをカバーする 15,000 を超える数の講座が常時告知されていて、月間サイト PV 数は 250,000、月間受講数は 8,000 件を越える。また、「ストアカ」の学習コミュニティから講師としての活動を外に広げる事例も多く、「ストアカ」より講師デビューする人材を支援する意味もあって、企業研修に講師を派遣する事業「オフィスク」も副次的に展開している。



図表 3-5 「ストアカ」トップページ

<https://www.street-academy.com/tokyo/top>

## (2)調査方法の詳細

対象	ストリートアカデミー株式会社 <a href="https://www.street-academy.com/co">https://www.street-academy.com/co</a>
人物	代表取締役 藤本崇氏
日時	2018年1月31日 12:30-13:30
場所	東京都文京区小石川一丁目4番1号 住友不動産後樂園ビル 18階

今回のヒアリング調査ではストリートアカデミー株式会社代表取締役社長の藤本崇氏に、主に以下の4点について話を聞いた。

- ・ 起業の背景にある課題意識
- ・ 「ストアカ」のビジネス・モデル
- ・ 「ストアカ」を運営して思うこと
- ・ 今後の展開の構想

ヒアリングの前に藤本氏には、一般公開されている「生涯学習プラットフォーム(仮称)」平成28年度の調査研究の報告書を提供し、本調査研究の意図を伝えた。自治体に対してのヒアリングでは事前に案内した「実証用サイト」については、今回のヒアリングでは一切言及しなかった。

### (3)ヒアリング内容

#### 【起業の背景にある課題意識】

- ・ 日本における社会人を対象にした学びのマーケットは、健全・有効に機能していない。社会人が必要なことだけを短期間で学ぶ機会は、ほとんど提供されていない。
- ・ 若い学習者が抱えている「自分本位」に「必要な学び」だけと「安心」して出たいという需要を、社会人を対象にした既存の教育サービス(入学、在籍、月謝の概念をベースにしたスクール形態のサービス)では満たせない。
- ・ 問題の根源は、教育サービスを提供している側と学ぶ機会を求めている学習者側の間にある「情報格差」である。いわゆる“〇〇教室”(入学、在籍、月謝が前提)のような習い事サービスでは、学習者は学習成果を見る前に、つまり役務提供がされる前に、学びの機会に対しての「高額な支払い」と「長期のコミットメント」を要求される。望ましい成果が得られなかった時にサービスを提供する側の最上級の逃げ口上は、「学びはアナタ次第」であり「成果が出ないのは、アナタの努力が足りないから」である。
- ・ 「〇〇セミナー」のように銘打った、長期コミットメントを前提としない形態で提供されている学びの機会も存在する。しかし、そこには隠された目的・意図(たとえば入会勧誘や商材販売など)があることも多く、特に若い学習者には恐れられ、避けられているという現実がある。「〇〇セミナー」と銘打った学びの機会が信用・安心できない状況は、学習者にとっては非常に不幸なことである。学びと人の出会いは本来良質なものであるはずだが、学習者が条件反射的に「〇〇セミナー」を避けることで、結果として貴重な学びの機会を失っている可能性もある。
- ・ 新たな事業を立ち上げた背景としては、大人になってから新しく何かを始めたいと思ったときに、あまり学びの選択肢がないというのが発端だった。社会人が学びに対し気軽に、すなわち「お手軽な価格」で、「長期のコミットメントを前提としない」で、「安心」して一歩を踏み出せるような機会を、新たな選択肢として提供したかった。

## 【「ストアカ」のビジネス・モデル】

### ＜基本モデル＞

- ・ 「ストアカ」の仕組みは Peatix<sup>53</sup>に近いイベントの告知サービスで、イベントの主催者である講師(教えたい人)には予約管理、決済などの機能を提供し、生徒(学びたい人)にはイベント検索や受講後のレビュー投稿機能などを提供する。
- ・ 提供される学習機会はオンライン学習ではなく、全て“リアルな集い”である。講師は、いつ、どこで、何を、いくらで提供するかを決めて、募集人数を決めて、イベントを告知する。料金体系として、入学金の徴収は認めない。体験入学から月謝に誘導するのも駄目である。単発のイベントか 10 回までのコースの売り切りは認めるが、終わりが明確でない状況で継続する形態は認めない。月謝を前提とするサロン型の学びは役務提供の完了が明確にならないため、ネット決済でのトラブルを避ける意味もある。
- ・ 講座の内容が「学び」の定義に合っていることを担保するために、運営側では講師が公開する情報をチェックしている。いかに短時間で労力をかけずに怪しいセミナーを見つけるか、“もぐら叩き”の効率化を可能にするノウハウの蓄積がある。また、講師には実名と顔写真の公表を義務と課している。このポリシーは、怪しげな「教えたい人」を締め出すフィルターとして機能していて、真面目に「学びたい人」にとっては安心を提供する仕組みになっている。
- ・ 講師が提供する情報(学びたいジャンル、日程、価格、エリアなどの項目)から、生徒は学びに行く先を絞り込んで選択する。講座が実際に開催され講師が収入を得た場合に、10%-20%の手数料を講師から受ける。多くの講座は 3,000 円～6,000 円/回で提供されている。「ストアカ」の収入は、講師が払う手数料(成約ベース)のみで、「学びたい人」からはサービス料を徴収していない。

### ＜レビュー投稿機能と学びの質保証＞

- ・ 生徒は自分が受講した講座に対してレビューを投稿できる。このレビューを“糧”に講師は自らの活動の裾野を広げていく。従来は登壇を依頼された人だけが講師になれるが、「ストアカ」は誰でも講師になれる仕組みだ。
- ・ 講師が実名と顔写真を公開してオープンにレビューを受け付ける仕組みは、業界としては“過激”な機能である。他の学びのマッチングやセミナー告知のサー

---

<sup>53</sup> Peatix: <https://peatix.com/>

ビスでは提供されていない。「ストアカ」は独自の投稿ガイドラインと運用ノウハウをもち、レビュー内容の品質を担保している。

### <「教える」「学ぶ」の承認と自己実現>

- ・ 講師の「教える」という活動は生徒からのレビューという形で評価され、その履歴は「ストアカ」の中に蓄積されていく。また、教えた回数、教えた人数、生徒の満足度などの条件をクリアしていくことで、「教える」活動に対して承認のバッジが付与される。この情報は外部から検索が可能で、「ストアカ」で実績を積む講師の中には、良質のコンテンツを探している雑誌・書籍の編集者の目に留まるという流れも多く発生しており、過去 2 年で「ストアカ」の講師が本を出版する例が 100 件以上ある。
- ・ 生徒の「学ぶ」という活動に対し、その深さ(特定分野での学び)やその幅(多様な学び)を承認する仕組みとして、「ストアカ」では 500 種類以上の認定ディプロマを発行している。継続して学ぶ生徒の中には、自らが教える側になる者もいる。また、「ストアカ」での学びを実生活の場で、転職、副業、独立という自己実現につなげる者もいる。

### <若い社会人の学びの場>

- ・ 「ストアカ」の利用者で学ぶ人のうち 65%は女性。また、20 代と 30 代で 70%。スマホなどの通信機器を利用することを半ば前提としているので、全般的に若い世代の利用者が多い。利用者の多くが 50 代以降の女性という既存のカルチャースクール市場とは、根本的に客層が違う。独身 F1 層で、自己投資欲と購買欲が高い層が中心である。

### 【「ストアカ」を運営して思うこと】

- ・ 生徒のレビューを見ると、学びの機会に求められているのは「出会い」「刺激」「気付き」の 3 点である。学びのジャンルには関係なく、社会人が学びに求めるのは、情報としての学習・教育の機会ではなく、「つながりたい」、「刺激が欲しい」、「自分でやりたいのでヒントが欲しい」という側面が強い。単なる情報収集の段階では、もっと軽い学びのスタイルとして“ネット検索”をすれば、いくらでも情報が手に入る時代である。それでは足りない人が、実際に人に会い刺激をもらいたくて、リアルな学びの場に来ている。
- ・ 学びの成果として身に付くものは、趣味なのか、実益なのか。人生 100 年の時代において、学びの行為の先に「仕事なのか趣味なのかを、あえて明確にしながらもいい」という人生の選択肢があることは、社会にとっても個人にとっても大

事なのではないか。仕事と趣味の境がハッキリしない「滑らかな社会」を目指したい。リカレント教育の必要性が叫ばれる今、「ストアカ」は若い人だけではなくて、腰の重い中年の社会人に活用してもらいたい。

### 【今後の展開の構想】

- ・ 現時点で「ストアカ」ではメンバー間のネットワーキング化機能を提供していないが、提供される学びは全てリアルで行われるので、人と人の出会いは演出される。既存 SNS の悪用が指摘されていることもあり、「ストアカ」に SNS 的な機能、たとえばメンバーがどのような学習活動を行っているかについての情報を交換し合えるような機能については、慎重に検討している。
- ・ 個人の“学びの消費データ”を利用して、関連サービスとの連携は考えられる。個人の能力という観点では就職・転職に関わるサービス、個人の興味・投資(時間とお金をかけて何を学んでいるのか)という観点では特定市場の物販サービスなど、様々な付加価値を生み出すことが可能だろう。また、地域ごとに学びの需要を把握できるので、行政との連携も検討していきたい。実際に、地域経済の「もの消費(商品の販売)」に「こと消費(体験の機会)」を連携させる仕組みとして、「ストアカ」が機能している例もある。

### (4) 考察

ヒアリングの最初で藤本氏は、“ライフ・シフト戦略<sup>54</sup>に書かれているようなことは全て「ストアカ」で実践されている”と宣言してくれた。“全て”を確認するのは難しいが、主要なポイントとして「選択肢の多様化とマルチステージの人生」と「見えない資産:生産性資産、活力資産、変身資産」の2点について考えてみる。

#### ・選択肢の多様化とマルチステージの人生

長寿化が進み、選択肢が多様化すると、今までの画一的な「教育」⇒「仕事」⇒「引退」というステージの人生が唯一のモデルではなくなる。そこで個人にとって大事になるのは、常に自らを変身・変革し続ける意識である。「ストアカ」が提供しようとしている学びの選択肢のあり方は、まさに人生 100 年時代の社会に求められるものだろう。また、自分が「何を大事にして、何を人生の土台にして生きたいのか」を考え続ける社会は、藤本氏の言う「滑らかな社会」にもイメージが重なる。

---

<sup>54</sup> LIFE SHIFT(ライフ・シフト)—100 年時代の人生戦略、リンダ・グラットン、アンドリュー・スコット (邦訳版、東洋経済新報社、2016)

## ・見えない資産：生産性資産、活力資産、変身資産

ライフ・シフト戦略では、金銭に換算が難しい見えない資産を次の3つに分類している。

### ① 生産性資産

- ・複数の新しいスキルと専門技能を獲得し続けることが大事
- ・仲間の存在、良い評判の維持のため、ソーシャルメディアの利用が大事

「ストアカ」の提供している学びをマッチングする機能とレビュー投稿機能は、この2点に対応すると考えられる。

### ② 活力資産

- ・肉体的・精神的な健康
- ・「自己再生のコミュニティ」

「ストアカ」の提供しているサービスが必ずしも肉体的・精神的な健康に貢献するかは疑問だが、社会人にとって学びの機会が限られている日本の社会において、気軽に学び続ける機会の提供は、脳の機能が衰えるのを少なからず防ぐと期待しても良いだろう。また、仕事中心に生活する社会人が多く、仕事の外とのコミュニティに参画する機会が少ない状況では、「ストアカ」が「自己再生のコミュニティ」のプラットフォームとしての役割を果たすことは期待できるかもしれない。

### ③ 変身資産

- ・人生のステージ間の移行を成功させる意思と能力
- ・具体的には、次の3つ
  - 自分について知っている
  - 多様な人材とのネットワークを持っている
  - 新しい経験を恐れない

これは、「ストアカ」の提供するサービスの価値そのものと考えられる。何を学びたいかに思いをめぐらせるとき、人は「何ができて何ができないのか」を意識することになる。そして、「ストアカ」にて「自分ができないことをできる人」に出会う機会を見つけ、「新しい経験」に一步踏み出す行動を起こす。

「教える」という行為は“自分のスキル・興味”を棚卸しすることであり、己に内在する「学び」の欲求に気が付くキッカケでもある。「ストアカ」は個人の間の「教えたい」と「学びたい」のマッチングを提供するサービスであるが、そこに加えて、個人の中の「教え

たい」と「学びたい」のサイクルを後押しする環境も提供しているとも考えられる。「ストアカ」において、個人の活動は「ストアカ」の中に閉じられたもの、あるいは閉じられるべきものではない。「教えること」と「学ぶこと」を通じて、個人がより良い人生へ一歩を踏み出すキッカケにつながっている。そこには、「生涯学習プラットフォーム(仮称)」の構想のベースにある「学び」と「実践活動」の循環に資する機能の“芽”をみることができるのではないか。

学びのあり方は文化によって大きく異なるところもあり、海外の成功事例が日本で同じように機能するかは保証されるものではない。今回は 1 時間という短い時間でのヒアリングであったが、「ストアカ」から学ぶべきことは多いと感じるには、十分な時間であった。「生涯学習プラットフォーム(仮称)」を構想段階から実現に向けて具体的な施策を検討する段階に進める際には、改めて「ストアカ」の仕組み・実践の様子を調査する価値があると思われる。

## 第4章 考察・提言・今後の課題

「生涯学習プラットフォーム(仮称)」が果たすべき役割として、平成 28 年度の提言にもある通り、1 つ目は学習者の QoL(Quality of Life)の向上がある。

学ぶということ自体が学習者の自己実現につながると共に、地域貢献等の自己実現の方法を提供しやすくなり、様々な地域課題への取り組みも促進されるため、学習者である地域住民の QoL が向上する。

2 つ目は、地域課題解決のための地方公共団体等の負担減が考えられる。

学習者の自己実現と地域課題解決が結びつくため、ボランティアベースで地域課題の発掘や解決がなされ、地方公共団体等の負担が減り、より地域が活性化していくことへ貢献できることが期待される。

人生 100 年時代を見据えた、一億総活躍社会の実現に向けて、いくつになっても学び直しができ、新しいことにチャレンジできる環境の実現に寄与できる「生涯学習プラットフォーム(仮称)」の実現が必要と考えられる。

### 4.1 学習機会提供の機能に関して

本実証でのマッチングのための課題設定は、地域(教育委員会、学校)では、授業時に教員を補助する人材を民間事業者や地域住民に求める必要が出てくる。一方、学習者側では、学校現場で教員を補助しながら授業の支援にあたるために、最低限必要な知識をどこで学べばよいかなどがわからない。また、求人の情報も効率よく得られないなど、両者のマッチングに課題があると設定した。

そのため学習機会提供の機能をはじめとする「生涯学習プラットフォーム(仮称)」の各機能等に関する実証は、こども未来研究所、及び教育支援人材認証協会の認証を受け、学校での活動に興味、関心をもつ学習者を想定して行った。

学習機会の提供については、既に、多くの教育コンテンツや SNS が存在しており、多くのユーザーがそれらを利用していることを考えると、本プラットフォームで 1 から教育コンテンツや SNS を構築し、普及させるといったことは効率的な方法であるとはいえない。「生涯学習プラットフォーム(仮称)」として具備すべき最低限の機能や運営団体の信頼性等、基準を設け、認定制度を非営利団体によって運営することで、そういった既存の社会インフラを活用することができる。特に、個人情報の取り扱いなどについては、それを民間で運用するという観点から、前例を踏まえながらトラストフレームワーク(信用基盤)を整え、標準として運用することが必須である。

## 4.2 学習・活動の履歴の記録・証明機能に関して

学習者に対して行った、検証用サイトを使ったアンケートの結果を見ると、15 人中 10 人がバッジに対して「とても便利である」あるいは「まあまあ便利である」と答え、バッジの価値を認めていると言える。また、複数のバッジをまとめて上位のバッジとするバッジマップの仕組みについても、同じく 15 人中 10 人が「とても便利である」あるいは「まあまあ便利である」と答えている。

一方で、バッジと紙の修了証をデジタル化したもののどちらがよいかを聞くと、15 人中 1 人はデジタル化した修了証、7 人はどちらかと言えばデジタル化した修了証と答えており、従来の形に近い方が好まれる傾向が見える。理由を尋ねた回答では、他人にわかりやすい、修了証よりもコンパクトで、紛失の恐れが少ないなどのバッジのメリットが挙げられる一方、バッジだと軽い印象を受けるというものもあり、両方があればよいという意見もあった。

自治体にヒアリングした内容には、資格の名前からそれが有効かどうかわからないもの、あるいはインフォーマル、ノンフォーマルを含んだ学びも統一的に扱えるバッジの可能性をうかがわせるものがあった。また、一覧になっているので閲覧しやすい、その人の学びの履歴や資格が一目で分かるなどの声もあった。

一方、特に高齢者がデジタルの仕組みを使いこなせるかを疑問に思う声、自分の記録を書くこと自体に価値を見出しているという指摘、オンライン上でのバッジ付与が具体的な実感を伴うものとなるのかの懸念もあった。

人を探すときも、スキル以上に人柄が大事で、人づての紹介を重視する点の指摘があった。

さらに、学習履歴を個人情報と捉え、徹底した管理が必要であるという指摘もあった。

全般として、フォーマルからインフォーマルまですべての学びをデジタルバッジとして記録することが有効であるという点に反対する声はないが、実現に向けた留意点としていくつかの指摘があった。また、複数のバッジをまとめて上位のバッジとするバッジマップの仕組みなどは、学習に対するモチベーションを保つことに対して有効であると思われる。最も留意すべき点は、地域課題の解決などの活動に対する適任者を探すプロセスでのデジタルバッジの役割で、高齢者への対応、情報の網羅性や即時性、知識や資格だけでは適格かどうかの判断が困難であるなど、仕組みと運用方法を考える上での指摘が多かったと言える。

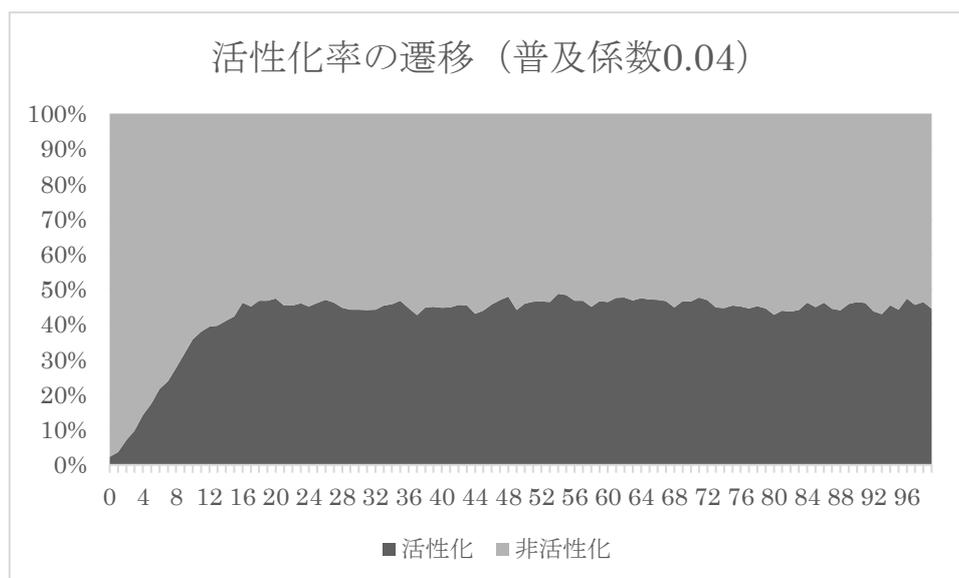
### 4.3 学習者等のネットワーク化機能に関して

アンケート結果から、実証用サイトの普及係数が 0.05 であることが分かった。仮に 0.04 であるとする、自然増係数が 1% で自然減係数が 20% のときのシミュレーション結果から、収束数の比率は 46% であることがわかる。

普及係数	収束数	収束率
0.02	241.314	24%
0.04	456.7857	46%
0.06	583.1047	58%
0.08	639.2857	64%
0.1	686.0761	69%
0.12	716.0323	72%

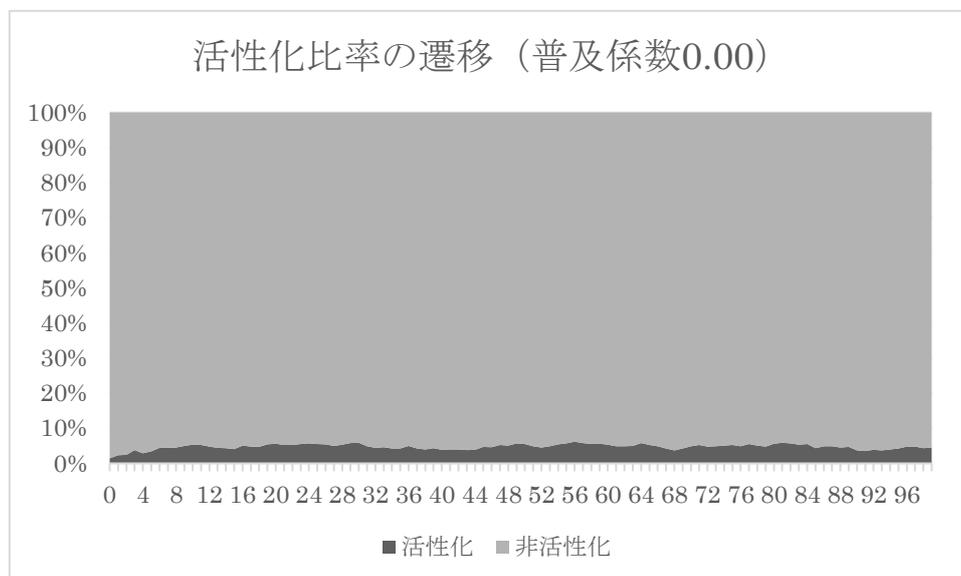
図表 4-5 普及係数と収束数、収束率シミュレーション結果

活性化数と非活性化数の遷移は下図のようになる。



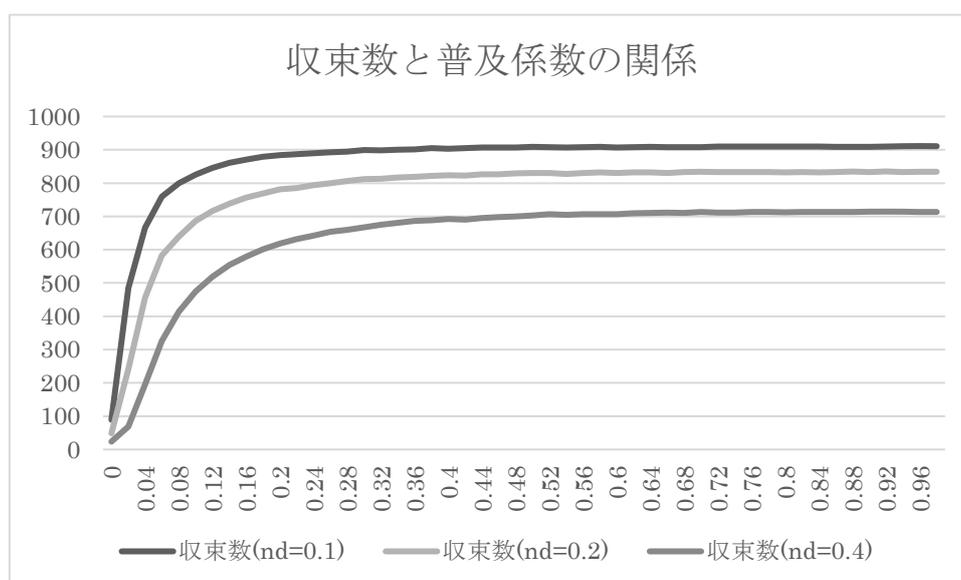
図表 4-6 活性化比率の遷移 (普及係数 0.05)

比較のため、普及係数 0.00 の場合の図は、以下のようになる。



図表 4-7 活性化比率の遷移 (普及係数 0.00)

これら2つの図の比較からも、SNS を「生涯学習プラットフォーム(仮称)」の普及展開のために活用することは、非常に大きな効果を期待できることがわかる。なお、自然減係数を 10%、20%、40%としてシミュレーションすると、収束数は以下のようになり、自然減係数によっても収束数は増減することとなるため、学習者自身による活動等の拡散といった普及係数に資する機能がある程度整えたのちは、情報提供等のコンテンツの充実や社会教育主事等の媒介者との相談を通じたケアといった自然減係数に資する機能を強化していくことで、収束数を効果的に上昇させることができると言える。



図表 4-8 収束数と普及係数の関係

また、今回シミュレーションで考慮しなかった以下の質問についての重みを考慮した平均値は、それぞれ 0.25、0.64、0.28 となっており、これらによるネットワーク化の促進効果も考慮すれば、一層、学習者等のネットワーク化機能が普及展開に向けた重要な機能であることがわかる。

- (Q14) 学習後、学習者同士が友だちになりたいと思いますか。
- (Q15) 他の学習者にコンタクトしてみたいですか。
- (Q16) 他の人の「確かに」ボタンを押したいですか。

以上のことから、以下のことが言える。

- ネットワーク化機能は、「生涯学習プラットフォーム(仮称)」の普及展開に大きく資する機能であること
- 普及係数の改善(口コミ効果向上のための施策)は、ある程度までは大きくユーザー数の向上に作用するが、ある程度改善したのちは、自然減係数の改善(離脱者を削減する施策)をしたほうが、効率がよくなること

実際の「生涯学習プラットフォーム(仮称)」を運営するにあたっては、評価指標を定期的に確認し、上記の点に注意しながら、どのような施策を取るべきタイミングであるか意識して運営方針を決定していくことが必要であると考えます。

ただし、アンケート結果の Q13 や Q17 の結果を鑑みると、学習者等のネットワーク化機能のシミュレーションが前提としたインターネットサイトの活用については消極的な意見も多く、単にインターネットサイトのみでネットワーク化を行うには限界があるとも言える。平成 28 年 5 月に公表された中央教育審議会答申「個人の能力と可能性を開花させ、全員参加による課題解決社会を実現するための教育の多様化と質保証の在り方について」にも、以下のようにある。

○第三の機能(学習者等のネットワーク化機能)を通じて、例えば、社会教育主事や地域のコーディネーター等の社会教育関係者が、「顔の見える」関係の中で、地域住民等に地域学校協働活動等の地域活動の機会を提供する際に、「生涯学習プラットフォーム(仮称)」上に蓄積されている様々な学習機会に関する情報や学習・活動履歴を活用することで、より効果的なマッチング等が促進されることが期待される。

このことから、学習者等のネットワーク化機能の実装に際しては、インターネットサイトに依存した仕組みづくりを前提とするのではなく、答申の言うところの「顔の見える」

関係も踏まえたインターネットサイト「も」活用する仕組みづくりを整える必要があると考える。

## 4.4 提言

「生涯学習プラットフォーム(仮称)」の果たすべき姿として、下記のようなことが望まれる。

### 学習者の QoL(Quality of Life)の向上

学ぶということ自体が学習者の自己実現につながると共に、地域貢献等の自己実現の方法を提供しやすくなり、様々な地域課題への取り組みも促進されるため、学習者である地域住民の QoL が向上することに寄与できること。また、これにより「生涯学習プラットフォーム(仮称)」によって学んだ事実に対する承認欲求が満たせて、それがさらなる学びのモチベーションにつながる。

### 地域課題解決のための地方公共団体等の負担減

学習者の自己実現と地域課題解決が結びつくため、ボランティアベースで地域課題の発掘や解決がなされ、地方公共団体等の負担が減ること。

地域創生と教育格差の是正に貢献できること。

### 様々な人が活用できるプラットフォームであること

「生涯学習プラットフォーム(仮称)」は、ICT リテラシーをもち、ICT を活用することに関心のある学習者だけの利用にならないよう、様々な年代、様々な状況にあるすべての学習者が活用できるようにする必要がある。

対面による学習機会等に参加が難しい高齢者や学習困難者も、ICT を活用したプラットフォームであれば、場所や時間を選ばずに学習の機会を得ることができる。

### 【「生涯学習プラットフォーム(仮称)」の普及展開を促進するための方策】

#### 初等中等教育や大学のカリキュラムでも活用される

地域ボランティア活動に参加したり、例えばプログラミング教育や英語会話教育の実践のために地域ボランティアを受け入れたり、様々な地域とのつながりから、児童生徒、学生たちが学べることは大きい。「生涯学習プラットフォーム(仮称)」の教育現場での活用は、社会に開かれた教育課程の実現に資するものと考えられる。

## **NPO 等とも連携すること**

NPO 等が「生涯学習プラットフォーム(仮称)」を活用することで、より多くの地域住民にその課題意識や活動をアピールすることができる。それによって、活動の輪が広がったり、NPO と地域人材との出会いを促進したりすることで、より場としての機能が促進されると考える。

## **地方公共団体の生涯学習部門以外とも連携すること**

生涯学習は、おもに地方公共団体がその地域の住民のために提供すべきものであるが、地方公共団体の生涯学習部門以外とも連携することが求められる。行政コストの削減を考えるならば、地方公共団体各部門の課題解決のために、積極的に地域人材を活用できることのメリットは大きいと考える。

## **個人情報に配慮した設計であること**

自治体へのヒアリングにもあるように、学習履歴は個人情報にあたるので、徹底した管理が必要となる。東京都 A 区の場合、現在運営をしている生涯学習講座では、誰がどういった講座を受講したかなどの情報は一切データに残さないような運営をしている。不特定多数に個人の学習の履歴が提示されてよいのかなど、個人情報の観点からも十分な議論、検討が必要と言える。

## **表彰制度やポイント制度等のインセンティブを設計すること**

生涯学習パスポートとは別に、地域や国がその貢献に対して報いる方法を設計する必要がある。例えば、地域への貢献に応じてポイントが配られ、ランキング上位者が表彰されたり、そのポイントで何らかのサービスを利用できたり、といったことが考えられる。何らかの数値化を試みることは、政策の評価指数を考える上でも効果が期待できる施策である。

## **検定試験等を活用すること**

現在、我が国においては、多くの検定試験が整備され、実施されている。これらの検定は、地域人材の認証にも活用できると考えられる。その際、答申にもあるように第三者評価等、検定試験自体をある程度客観的に評価する仕組みについても併せて検討されることが望ましい。

## **全員参加の実現に向けて**

全員参加による課題解決社会を実現するためには、ICT との関わりが低い高齢者層への配慮も必要である。

自治体で現在取り組んでいる、学習者の活動の履歴を記したり、証明したりする手段として、手帳などの形式のものに手書きで書きとめる場合が多い。その手書きの意

義が示すものは、ICT に精通していない人々への配慮だけでなく、デジタルではないからこそそのよさを見出している場合もある。したがって、ICT 化すべきところ、すべきでないところ、その両方が共存する可能性についても検討すべき事項であると考えられる。

併せて高齢者や学習困難者等に対するICT へのリテラシーの向上への手立てやネットワークを使うことへの不安を払拭するための方策などを検討していくことも必要である。

## (別紙) 学習者向けアンケート

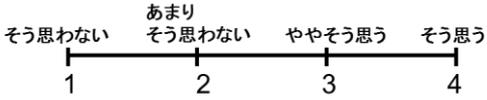
### 【基本情報】

お住まいの地域:都道府県:\_\_\_\_\_・\_\_\_\_\_市(区)

性別:( ) 1. 男 2. 女

年齢:( ) 1. ~20代 2. 30代 3. 40代 4. 50代 6. 60代以上

質問		記入欄
<p>Q1 どういう活動に認証を活かしたいと思っていますか？ 記入欄に該当する番号を選び、ご記入ください。</p>	<p>1. 仕事に活かしたい。 2. 再就職に役立てたい。 3. 地域活動したい(ボランティア活動など)。 4. 学校で子どもたちに教えてみたい。 5 その他( )</p>	
<p>具体的にご記入ください。</p>		
<p>Q2 Q1のために、どのようなところから情報を得ていますか？ 記入欄に該当する番号を選び、ご記入ください。</p>	<p>1. 自治体の広報誌 2. 自治体のホームページ 3. 知人・友人からの案内 4. SNS 5.その他( )</p>	
<p>具体的にご記入ください。</p>		

<p>Q3.認証を受ける前、その認証についてどのような情報を知りたいと思っていましたか？記入欄に該当する番号を選び、ご記入ください。</p>	<p>1. 認証の詳しい情報 2. 認証を受けた後、活かし方 3. その他( )</p>	
<p>具体的にご記入ください。</p>		
<p>Q4. Q3.のような知りたい情報がすべて、ひとつのインターネットサイト(プラットフォーム※)にまとまっていたとします。そのサイトには、どのような情報や機能が必須で掲載されているほしいですか。記入欄に該当する番号を選び、ご記入ください。 (複数回答可)</p>	<p>1.学びたい内容を学習できる機能 2.学んだことを認証できる機能 3.学んだ記録を記録できる機能 4.学習者同士が情報交換できる機能 5.最新の生涯学習に関する情報を入手できる機能 6.その他( )</p>	
<p>具体的にご記入ください。</p>		
<p>Q4.にあるインターネットサイトを仮に作ってみました。  ログインのウィンドウは仮ですので、「サインイン」「新規登録」の両ボタンをクリックした先は、同じページに遷移します。 ここからは、このサイトをご覧いただいた上で、ご質問にご回答ください。</p>		
<p>Q5. 仮のインターネットサイトで活動を探しやすいと思いますか。 記入欄に該当する番号を選び、ご記入ください。</p>	<p style="text-align: center;"> <small>あまり</small>  <small>そう思わない</small>    <small>ややそう思う</small>    <small>そう思う</small>    1                      2                      3                      4 </p>	
<p>理由をご記入ください。</p>		

<p>Q6. 仮のインターネットサイトで学習コンテンツを選びやすいと思いますか。記入欄に該当する番号を選び、ご記入ください。</p>	<p style="text-align: center;"> <span style="margin-right: 20px;">あまり</span> <span style="margin-right: 20px;">ややそう思う</span> <span style="margin-right: 20px;">そう思う</span> </p> <p style="text-align: center;"> <span style="margin-right: 20px;">1</span> <span style="margin-right: 20px;">2</span> <span style="margin-right: 20px;">3</span> <span style="margin-right: 20px;">4</span> </p>	
<p>理由をご記入ください。</p>		
<p>Q7. 仮のインターネットサイトでコミュニティに参加しやすいと思いますか。記入欄に該当する番号を選び、ご記入ください。</p>	<p style="text-align: center;"> <span style="margin-right: 20px;">あまり</span> <span style="margin-right: 20px;">ややそう思う</span> <span style="margin-right: 20px;">そう思う</span> </p> <p style="text-align: center;"> <span style="margin-right: 20px;">1</span> <span style="margin-right: 20px;">2</span> <span style="margin-right: 20px;">3</span> <span style="margin-right: 20px;">4</span> </p>	
<p>理由をご記入ください。</p>		
<p>Q8. 仮のインターネットサイトで他の参加者と交流してみたいと思いますか。記入欄に該当する番号を選び、ご記入ください。</p>	<p style="text-align: center;"> <span style="margin-right: 20px;">あまり</span> <span style="margin-right: 20px;">ややそう思う</span> <span style="margin-right: 20px;">そう思う</span> </p> <p style="text-align: center;"> <span style="margin-right: 20px;">1</span> <span style="margin-right: 20px;">2</span> <span style="margin-right: 20px;">3</span> <span style="margin-right: 20px;">4</span> </p>	
<p>理由をご記入ください。</p>		
<p>Q9. この仮のインターネットサイトには、学習した本人の学習の記録などを掲載した学習者のページがあります。このページを見て、情報の過不足があれば教えて下さい。</p>		
<p>Q10. 学習者のページでは、この学習者が取得した認証や活動の記録などが、バッジとして表されています。バッジには認証や活動の内容やバッジを与えた組織と日付などが記録されていて、Facebook などの自分の SNS のページにも表示することができます。このようなバッジがあると便利だと思いますか。記入欄に該当する番号を選び、ご記入ください。</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. まったく便利ではない。</li> <li>2. あまり便利ではない。</li> <li>3. まあまあ便利である。</li> <li>4. とても便利である。</li> </ol>	
<p>Q11. バッジマップというボタンをクリックすると表示されるページに示されているように、複数のバッジを組み合わせることで上位のバッジを取得することもできます。このような仕組みは便利だと思いますか。</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. まったく便利ではない。</li> <li>2. あまり便利ではない。</li> <li>3. まあまあ便利である。</li> <li>4. とても便利である。</li> </ol>	

<p>Q12. このようなバッジのしくみと、従来の紙の修了証をデジタルにしたものでは、どちらがよいと思いますか。</p>	<p>バッジがいい。          どちらかと言えばバッジがいい。          どちらとも言えない。          どちらかと言えばデジタル化した修了証がいい。          デジタル化した修了証がいい。</p>	
<p>理由をご記入ください。</p>		
<p>Q13. 他の学習者と情報交換のために、このインターネットサイトにネットワーク機能があったら、使ってみたいですか。記入欄に該当する番号を選び、ご記入ください。</p>	<p>1. まったく使ってみたくない。          2. あまり使ってみたくない。          3. 使ってみたい。          4. とても使ってみたい。</p>	
<p>理由をご記入ください。</p>		
<p>Q14. 学習後、学習者同士が友だちになりたいと思いますか。記入欄に該当する番号を選び、ご記入ください。</p>	<p>そう思わない      あまり          そう思わない      ややそう思う      そう思う          1                      2                      3                      4</p>	
<p>Q15. 学習後、学んだことを活かした活動に参加してみたいと思いますか。記入欄に該当する番号を選び、ご記入ください。</p>	<p>そう思わない      あまり          そう思わない      ややそう思う      そう思う          1                      2                      3                      4</p>	
<p>Q16. 他の学習者にコンタクトしてみたいですか。記入欄に該当する番号を選び、ご記入ください。</p>	<p>そう思わない      あまり          そう思わない      ややそう思う      そう思う          1                      2                      3                      4</p>	
<p>Q17. 参加した活動について、他の人に情報を拡散したいと思いますか。記入欄に該当する番号を選び、ご記入ください。</p>	<p>そう思わない      あまり          そう思わない      ややそう思う      そう思う          1                      2                      3                      4</p>	
<p>Q18. 友だちが拡散した情報を入手して、活動に参加してみようと思いますか。記入欄に該当する番号を選び、ご記入ください。</p>	<p>そう思わない      あまり          そう思わない      ややそう思う      そう思う          1                      2                      3                      4</p>	
<p>Q16. 他の人の「確かに」ボタンを押したいですか。記入欄に該当する番号を選び、ご記入ください。</p>	<p>そう思わない      あまり          そう思わない      ややそう思う      そう思う          1                      2                      3                      4</p>	
<p>Q19. プラットフォームに活動情報が掲載されていたら、参加してみたいと思いますか。記入欄に該当する番号を選び、ご記入ください。</p>	<p>そう思わない      あまり          そう思わない      ややそう思う      そう思う          1                      2                      3                      4</p>	
<p>プラットフォームにあったらいいと思う機能があったらご記入ください。</p>		

## (別紙) 自治体向けアンケート

質問		記入欄
Q1. 地域人材の情報を集めたり、地域人材を集めたりするために、生涯学習プラットフォームを活用したいと思う。該当する番号を選び、記入欄にご記入ください。		
Q2. Q1 のような地域課題の解決のために生涯学習プラットフォームは有効だと思う。該当する番号を選び、記入欄にご記入ください。		
Q3. 地域人材を探すためにプラットフォームを活用したいと思う。該当する番号を選び、記入欄にご記入ください。		
Q4. インターネットサイトを仮に作ってみました。  ログインのウィンドウは仮ですので、「サインイン」「新規登録」の両ボタンをクリックした先は、同じページに遷移します。 ここからは、このサイトをご覧いただいた上で、ご質問にご回答ください。		
Q5. 仮のインターネットサイトで学習者の活動履歴を閲覧しやすいと思いますか。記入欄に該当する番号を選び、ご記入ください。		
理由をご記入ください。		
Q6. 仮のインターネットサイトで学習者の学習履歴を閲覧しやすいと思いますか。記入欄に該当する番号を選び、ご記入ください。		
理由をご記入ください。		
Q7. 仮のインターネットサイトで学習者が得たバッチを見つけやすいと思いますか。記入欄に該当する番号を選び、ご記入ください。		
理由をご記入ください。		

<p>Q8. 仮のインターネットサイトで学習者とコンタクトしてみたいと思いますか。記入欄に該当する番号を選び、ご記入ください。</p>	<p style="text-align: center;"> <small>あまり</small>  <small>そう思わない</small>    <small>そう思わない</small>    <small>ややそう思う</small>    <small>そう思う</small> </p> <p style="text-align: center;"> <small>1</small>                      <small>2</small>                      <small>3</small>                      <small>4</small> </p>	
<p>理由をご記入ください。</p>		
<p>Q9. どのような地域人材を求めていますか。</p>		
<p>Q10. どのような情報を入手したいですか。</p>		
<p>プラットフォームにあったらいいと思う機能があったらご記入ください。</p>		

